

財務データ



営業の概況(連結ベース)

当連結会計年度の業績につきましては、資金の効率的な運用・調達、及び、経営全般の一層の合理化に努めるとともに、資産の健全性確保のために諸償却ならびに諸引当金の繰入を行いました結果、以下のとおりとなりました。

1. 主要勘定の概況

預金等(譲渡性預金を含む)は、当連結会計年度中に72,545百万円増加して当連結会計年度末残高は4,257,084百万円(うち預金は4,163,311百万円)となりました。一方、貸出金は94,392百万円増加して同残高は2,916,953百万円、有価証券は64,287百万円減少して同1,422,210百万円となりました。また、総資産の当連結会計年度末残高は4,777,483百万円で前連結会計年度末に比べて115,428百万円の増加、純資産の同残高は292,466百万円で同比24,931百万円の増加となりました。

2. 損益の状況

損益につきましては、経常収益は、低金利の長期化に伴う資金運用収益の減少を主因として、前連結会計年度比525百万円減収の88,290百万円となりました。一方、経常費用は与信コストや株式等償却の減少等の要因により、前連結会計年度比5,699百万円減少し68,758百万円となりました。以上の結果、当連結会計年度の経常

利益は、前連結会計年度比5,173百万円増益の19,531百万円、当期純利益も同5,483百万円増益の11,027百万円となりました。

なお、当行グループは、銀行業の単一セグメントであるため、セグメントの業績は記載しておりません。

3. キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ184,063百万円増加し、当連結会計年度末は256,862百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金は96,812百万円で、前連結会計年度と比べ、19,842百万円の増加となりました。この主な要因は、コールローン等の減少であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金は98,842百万円で、前連結会計年度と比べ、143,196百万円増加しました。その主な要因は、有価証券の取得による支出の減少であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により支出した資金は11,604百万円で、前連結会計年度と比べ支出した資金は10,004百万円増加しました。その主な要因は、劣後特約付借入金の返済による支出であります。

主要な経営指標等の推移(連結)

	単 位	平成21年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	平成22年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	平成23年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	平成24年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	平成25年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
連結経常収益	百万円	96,662	91,812	90,711	88,815	88,290
連結経常利益	百万円	8,881	11,842	18,261	14,357	19,531
連結当期純利益	百万円	4,322	4,676	8,228	5,544	11,027
連結包括利益	百万円	—	1,997	12,970	21,086	25,058
連結純資産額	百万円	257,738	257,531	248,047	267,535	292,466
連結総資産額	百万円	4,302,261	4,420,479	4,523,309	4,662,055	4,777,483
1株当たり純資産額	円	889.50	886.58	926.27	998.62	1,091.45
1株当たり当期純利益金額	円	16.37	17.71	31.17	21.00	41.79
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	円	—	—	—	—	41.78
連結自己資本比率(国際統一基準)	%	12.42	13.01	14.04	—	—
連結総自己資本比率(国際統一基準)	%	—	—	—	14.14	14.80
連結Tier 1比率(国際統一基準)	%	—	—	—	9.44	10.50
連結普通株式等Tier 1比率(国際統一基準)	%	—	—	—	9.44	10.50
連結自己資本利益率	%	2.00	1.99	3.43	2.18	3.99
連結株価収益率	倍	36.04	24.67	15.88	30.57	13.40
営業活動によるキャッシュ・フロー	百万円	145,573	72,347	33,367	76,969	96,812
投資活動によるキャッシュ・フロー	百万円	△ 162,053	△ 65,581	△ 43,614	△ 44,354	98,842
財務活動によるキャッシュ・フロー	百万円	9,780	△ 2,204	△ 2,197	△ 1,599	△ 11,604
現金及び現金同等物の期末残高	百万円	49,666	54,211	41,764	72,798	256,862
従業員数	人	2,638	2,650	2,602	2,530	2,508
[外、平均臨時従業員数]		[1,138]	[1,121]	[1,156]	[1,187]	[1,215]

(注) 1 当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2 「1株当たり純資産額」、「1株当たり当期純利益金額」及び「潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額」の算定に当たっては、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用しております。

なお、平成24年度以前は「潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額」は潜在株式がないため記載しておりません。

3 連結自己資本比率・連結総自己資本比率・連結Tier 1比率・連結普通株式等Tier 1比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は、国際統一基準を採用しております。なお、平成24年度よりパーゼルⅢベースで記載しております。

4 従業員数は出向者を除いた就業人員であり、[]内は嘱託及び臨時雇員の期中平均人員(外書き)であります。

主要な経営指標等の推移(単体)

	単 位	平成22年3月期	平成23年3月期	平成24年3月期	平成25年3月期	平成26年3月期
経常収益	百万円	86,355	81,200	79,647	76,930	75,708
業務純益	百万円	21,242	22,289	20,923	18,945	18,400
経常利益	百万円	6,886	8,819	15,849	12,569	17,432
当期純利益	百万円	3,904	3,845	7,358	4,822	10,188
総資産額	百万円	4,285,694	4,401,797	4,503,120	4,640,566	4,755,805
預金残高	百万円	3,788,065	3,899,175	3,994,497	4,094,961	4,167,024
貸出金残高	百万円	2,721,592	2,774,834	2,750,010	2,829,492	2,924,882
有価証券残高	百万円	1,338,875	1,385,377	1,430,092	1,485,577	1,421,212
資本金 (発行済株式総数)	百万円	33,076 (265,450千株)	33,076 (265,450千株)	33,076 (265,450千株)	33,076 (265,450千株)	33,076 (265,450千株)
純資産額	百万円	232,751	231,118	240,695	259,012	281,223
単体自己資本比率(国際統一基準)	%	12.31	12.87	13.83	—	—
単体総自己資本比率(国際統一基準)	%	—	—	—	13.90	14.54
単体Tier 1比率(国際統一基準)	%	—	—	—	9.18	10.22
単体普通株式等Tier 1比率(国際統一基準)	%	—	—	—	9.18	10.22
1株当たり純資産額	円	881.73	875.66	912.03	981.54	1,065.73
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額)	円	6.00 (3.00)	6.00 (3.00)	6.00 (3.00)	6.00 (3.00)	7.00 (3.00)
1株当たり当期純利益金額	円	14.79	14.56	27.88	18.27	38.61
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額	円	—	—	—	—	38.60
配当性向	%	40.56	41.20	21.52	32.84	18.13
従業員数	人	2,352	2,365	2,324	2,280	2,262

(注) 1 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2 第127期(平成26年3月期)中間配当についての取締役会決議は平成25年11月11日に行いました。

3 「1株当たり純資産額」、「1株当たり当期純利益金額」及び「潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額」の算定に当たっては、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用しております。

なお、第126期(平成25年3月期)以前の「潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額」は潜在株式がないため記載しておりません。

4 単体自己資本比率・単体総自己資本比率・単体Tier1比率・単体普通株式等Tier1比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は、国際統一基準を採用しております。なお、平成25年3月期よりパーゼルⅢベースで記載しております。

5 従業員数は出向者を除いた就業人員であります。

6 第127期(平成26年3月期)の1株当たり配当額7円のうち、期末配当額4円中1円は創立80周年記念配当であります。

連結財務諸表

会社法第396条第1項の規定および金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき平成23年度、平成24年度および平成25年度の連結財務諸表は有限責任監査法人トーマツの監査証明を受けております。

連結貸借対照表

(単位 百万円)

		平成23年度末 (平成24年3月31日現在)	平成24年度末 (平成25年3月31日現在)	平成25年度末 (平成26年3月31日現在)	
資産の部	現金預け金	42,079	73,233	257,212	
	コールローン及び買入手形	183,565	158,022	62,872	
	買入金銭債権	17,570	9,659	10,206	
	商品有価証券	1,032	476	851	
	金銭の信託	7,799	7,780	8,774	
	有価証券	1,430,242	1,486,497	1,422,210	
	貸出金	2,743,438	2,822,561	2,916,953	
	外国為替	5,481	5,683	8,300	
	その他資産	39,890	49,980	42,665	
	有形固定資産	59,240	59,005	57,845	
	建物	14,965	15,919	15,392	
	土地	40,005	39,578	39,347	
	建設仮勘定	818	160	224	
	その他の有形固定資産	3,450	3,346	2,881	
	無形固定資産	1,957	1,441	1,782	
	ソフトウェア	1,784	1,268	1,610	
	その他の無形固定資産	173	172	171	
	繰延税金資産	3,218	1,241	930	
	支払承諾見返	24,433	24,802	23,789	
	貸倒引当金	△ 36,491	△ 38,331	△ 36,912	
	投資損失引当金	△ 148	—	—	
	資産の部合計	4,523,309	4,662,055	4,777,483	
	負債の部	預金	3,985,459	4,090,014	4,163,311
譲渡性預金		104,524	94,524	93,773	
コールマネー及び売渡手形		—	14,303	28,069	
債券貸借取引受入担保金		—	10,135	19,224	
借入金		77,567	80,424	69,255	
外国為替		82	114	130	
社債		20,000	20,000	20,000	
その他負債		38,577	29,519	30,951	
退職給付引当金		14,062	15,179	—	
退職給付に係る負債		—	—	12,657	
役員退職慰労引当金		280	305	14	
睡眠預金払戻損失引当金		763	794	755	
利息返還損失引当金		152	91	65	
偶発損失引当金		289	254	279	
繰延税金負債		—	5,176	14,005	
再評価に係る繰延税金負債		9,032	8,854	8,720	
負ののれん		35	23	11	
支払承諾		24,433	24,802	23,789	
負債の部合計		4,275,261	4,394,520	4,485,017	
純資産の部		資本金	33,076	33,076	33,076
		資本剰余金	23,969	23,969	23,969
	利益剰余金	133,975	138,249	147,858	
	自己株式	△ 945	△ 959	△ 977	
	株主資本合計	190,076	194,336	203,926	
	その他有価証券評価差額金	43,200	58,488	71,996	
	繰延ヘッジ損益	0	△ 171	△ 60	
	土地再評価差額金	11,177	10,864	10,700	
	退職給付に係る調整累計額	—	—	1,417	
	その他の包括利益累計額合計	54,378	69,182	84,052	
	新株予約権	—	—	30	
	少数株主持分	3,593	4,016	4,456	
	純資産の部合計	248,047	267,535	292,466	
負債及び純資産の部合計	4,523,309	4,662,055	4,777,483		

連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位 百万円)

	平成23年度 (平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)	平成24年度 (平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)	平成25年度 (平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)
経常収益	90,711	88,815	88,290
資金運用収益	61,318	57,799	54,811
貸出金利息	46,144	43,763	41,883
有価証券利息配当金	14,626	13,585	12,484
コールローン利息及び買入手形利息	388	309	204
預け金利息	10	3	117
その他の受入利息	148	137	121
役員取引等収益	12,362	12,454	12,691
その他業務収益	13,715	15,019	17,240
その他経常収益	3,314	3,542	3,546
償却債権取立益	1,328	1,628	1,360
その他の経常収益	1,986	1,914	2,186
経常費用	72,450	74,457	68,758
資金調達費用	5,512	4,561	4,228
預金利息	4,279	2,911	2,418
譲渡性預金利息	257	176	122
コールマネー利息及び売渡手形利息	1	15	71
債券貸借取引支払利息	1	6	26
借入金利息	576	997	951
社債利息	378	377	378
その他の支払利息	16	75	259
役員取引等費用	3,735	3,875	4,096
その他業務費用	8,423	9,876	11,151
営業経費	47,632	46,599	45,584
その他経常費用	7,147	9,545	3,697
貸倒引当金繰入額	4,345	5,742	2,246
その他の経常費用	2,801	3,803	1,451
経常利益	18,261	14,357	19,531
特別利益	371	56	229
固定資産処分益	119	56	229
負ののれん発生益	251	—	—
特別損失	548	534	313
固定資産処分損	188	331	157
減損損失	359	202	156
税金等調整前当期純利益	18,084	13,880	19,447
法人税、住民税及び事業税	6,056	6,526	6,943
法人税等調整額	2,888	1,434	1,114
法人税等合計	8,944	7,961	8,057
少数株主損益調整前当期純利益	9,140	5,919	11,389
少数株主利益	911	375	362
当期純利益	8,228	5,544	11,027

連結包括利益計算書

(単位 百万円)

	平成23年度 (平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)	平成24年度 (平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)	平成25年度 (平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)
少数株主損益調整前当期純利益	9,140	5,919	11,389
その他の包括利益			
その他有価証券評価差額金	2,537	15,338	13,557
繰延ヘッジ損益	△ 0	△ 171	110
土地再評価差額金	1,293	—	—
その他の包括利益合計	3,830	15,167	13,668
包括利益	12,970	21,086	25,058
(内訳)			
親会社株主に係る包括利益	12,047	20,660	24,645
少数株主に係る包括利益	923	425	412

連結株主資本等変動計算書

平成23年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					株主資本合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		
当期首残高	33,076	23,970	127,215	△ 934		183,327
当期変動額						
剰余金の配当			△ 1,583			△ 1,583
当期純利益			8,228			8,228
自己株式の取得				△ 12		△ 12
自己株式の処分		△ 0		1		0
土地再評価差額金の取崩			115			115
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						
当期変動額合計	—	△ 0	6,759	△ 11		6,748
当期末残高	33,076	23,969	133,975	△ 945		190,076

	その他の包括利益累計額					新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計			
当期首残高	40,673	0	9,999	—	50,672	—	23,531	257,531
当期変動額								
剰余金の配当								△ 1,583
当期純利益								8,228
自己株式の取得								△ 12
自己株式の処分								0
土地再評価差額金の取崩								115
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	2,527	△ 0	1,178	—	3,705	—	△ 19,938	△ 16,232
当期変動額合計	2,527	△ 0	1,178	—	3,705	—	△ 19,938	△ 9,483
当期末残高	43,200	0	11,177	—	54,378	—	3,593	248,047

平成24年度(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					株主資本合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		
当期首残高	33,076	23,969	133,975	△ 945		190,076
当期変動額						
剰余金の配当			△ 1,583			△ 1,583
当期純利益			5,544			5,544
自己株式の取得				△ 14		△ 14
自己株式の処分		△ 0		1		1
土地再評価差額金の取崩			312			312
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						
当期変動額合計	—	△ 0	4,273	△ 13		4,260
当期末残高	33,076	23,969	138,249	△ 959		194,336

	その他の包括利益累計額					新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計			
当期首残高	43,200	0	11,177	—	54,378	—	3,593	248,047
当期変動額								
剰余金の配当								△ 1,583
当期純利益								5,544
自己株式の取得								△ 14
自己株式の処分								1
土地再評価差額金の取崩								312
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	15,287	△ 171	△ 312	—	14,803	—	423	15,227
当期変動額合計	15,287	△ 171	△ 312	—	14,803	—	423	19,487
当期末残高	58,488	△ 171	10,864	—	69,182	—	4,016	267,535

連結株主資本等変動計算書

平成25年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					株主資本合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		
当期首残高	33,076	23,969	138,249	△ 959		194,336
当期変動額						
剰余金の配当			△ 1,583			△ 1,583
当期純利益			11,027			11,027
自己株式の取得				△ 20	△ 20	
自己株式の処分		△ 0		2		1
土地再評価差額金の取崩			164			164
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						
当期変動額合計	—	△ 0	9,608	△ 18		9,590
当期末残高	33,076	23,969	147,858	△ 977		203,926

	その他の包括利益累計額					新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計			
当期首残高	58,488	△ 171	10,864	—	69,182	—	4,016	267,535
当期変動額								
剰余金の配当								△ 1,583
当期純利益								11,027
自己株式の取得								△ 20
自己株式の処分								1
土地再評価差額金の取崩								164
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	13,507	110	△ 164	1,417	14,870	30	439	15,341
当期変動額合計	13,507	110	△ 164	1,417	14,870	30	439	24,931
当期末残高	71,996	△ 60	10,700	1,417	84,052	30	4,456	292,466

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位 百万円)

	平成23年度 (平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)	平成24年度 (平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)	平成25年度 (平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前当期純利益	18,084	13,880	19,447
減価償却費	3,849	3,338	2,555
減損損失	359	202	156
負ののれん償却額	△ 263	△ 11	△ 11
貸倒引当金の増減(△)	398	1,840	△ 1,419
投資損失引当金の増減額(△は減少)	△ 493	△ 148	—
偶発損失引当金の増減(△)	△ 139	△ 34	24
退職給付引当金の増減額(△は減少)	1,274	1,117	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	—	—	△ 2,521
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△ 16	24	△ 290
睡眠預金払戻損失引当金の増減(△)	40	31	△ 38
利息返還損失引当金の増減額(△は減少)	△ 33	△ 60	△ 26
資金運用収益	△ 61,318	△ 57,799	△ 54,811
資金調達費用	5,512	4,561	4,228
有価証券関係損益(△)	△ 2,668	△ 2,284	△ 3,885
金銭の信託の運用損益(△は運用益)	△ 54	△ 95	△ 189
為替差損益(△は益)	2	△ 19	△ 14
固定資産処分損益(△は益)	69	275	△ 71
貸出金の純増(△)減	24,668	△ 79,123	△ 94,392
預金の純増減(△)	94,052	104,554	73,296
譲渡性預金の純増減(△)	△ 5,154	△ 10,000	△ 751
借入金(劣後特約借入金を除く)の純増減(△)	10,409	2,856	△ 1,168
預け金(日銀預け金を除く)の純増(△)減	25	△ 120	83
コールローン等の純増(△)減	△ 99,224	33,453	94,603
コールマネー等の純増減(△)	—	14,303	13,766
債券貸借取引受入担保金の純増減(△)	△ 1,534	10,135	9,089
外国為替(資産)の純増(△)減	△ 510	△ 202	△ 2,616
外国為替(負債)の純増減(△)	22	32	16
資金運用による収入	59,840	57,613	56,253
資金調達による支出	△ 6,415	△ 5,852	△ 4,333
その他	1,902	△ 9,504	△ 3,664
小計	42,684	82,961	103,313
法人税等の支払額	△ 9,316	△ 5,991	△ 6,501
営業活動によるキャッシュ・フロー	33,367	76,969	96,812
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有価証券の取得による支出	△ 525,528	△ 812,194	△ 508,303
有価証券の売却による収入	288,444	555,717	397,609
有価証券の償還による収入	197,905	215,357	212,489
金銭の信託の増加による支出	—	—	△ 1,000
有形固定資産の取得による支出	△ 4,331	△ 2,970	△ 1,897
有形固定資産の売却による収入	351	401	777
無形固定資産の取得による支出	△ 455	△ 665	△ 832
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 43,614	△ 44,354	98,842
財務活動によるキャッシュ・フロー			
劣後特約付借入れによる収入	20,000	—	—
劣後特約付借入金の返済による支出	—	—	△ 10,000
少数株主への払戻による支出	△ 20,000	—	—
配当金の支払額	△ 1,583	△ 1,583	△ 1,583
少数株主への配当金の支払額	△ 602	△ 2	△ 2
自己株式の取得による支出	△ 12	△ 14	△ 20
自己株式の売却による収入	0	1	1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,197	△ 1,599	△ 11,604
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 2	18	13
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 12,446	31,033	184,063
現金及び現金同等物の期首残高	54,211	41,764	72,798
現金及び現金同等物の期末残高	41,764	72,798	256,862

●注記事項

[平成25年度]

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1.連結の範囲に関する事項

(1)連結子会社 9社

会社名

しがざんビジネスサービス株式会社
しがざん代理店株式会社
しがざんキャッシュサービス株式会社
滋賀保証サービス株式会社
しがざんコンピュータサービス株式会社
株式会社しがざん経済文化センター
株式会社滋賀ディシーカード
しがざんリース・キャピタル株式会社
株式会社しがざんジェーシービー

(2)非連結子会社

会社名

滋賀ベンチャー3号投資事業有限責任組合
滋賀ベンチャー4号投資事業有限責任組合
滋賀の魅力発信ファンド投資事業有限責任組合
非連結子会社は、その資産、経常収益、当期純損益(特に見合う額)、利益剰余金(特に見合う額)及びその他の包括利益累計額(特に見合う額)等からみて、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。

2.持分法の適用に関する事項

(1)持分法適用の非連結子会社

該当事項はありません。

(2)持分法適用の関連会社

該当事項はありません。

(3)持分法非適用の非連結子会社

会社名

滋賀ベンチャー3号投資事業有限責任組合
滋賀ベンチャー4号投資事業有限責任組合
滋賀の魅力発信ファンド投資事業有限責任組合
持分法非適用の非連結子会社は、当期純損益(特に見合う額)、利益剰余金(特に見合う額)及びその他の包括利益累計額(特に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除外しております。

(4)持分法非適用の関連会社

該当事項はありません。

3.連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は次のとおりであります。

3月末日 9社

4.開示対象特別目的会社に関する事項

該当事項はありません。

5.会計処理基準に関する事項

(1)商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)により行っております。

(2)有価証券の評価基準及び評価方法

(イ)有価証券の評価は、売買目的有価証券については時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、その他有価証券については原則として連結決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)といたし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。なお、その他有価証券の評価価額については、全部純資産直入法により処理しております。

(ロ)有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。

(ハ)「買入金銭債権」中の信託受益権の評価は、上記(イ)と同じ方法により行っております。

(3)デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

(4)固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産(リース資産を除く)

当社の有形固定資産は、定率法(ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く。))については定額法を採用しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3年～50年

その他 3年～20年

連結子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定率法により償却しております。

②無形固定資産(リース資産を除く)

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結子会社で定める利用可能期間(主として5年)に基づいて償却しております。

③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

(5)貸倒引当金の計上基準

当行の貸倒引当金は、予め定めている償却引当基準に則り、次のとおり計上しております。破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下「実質破綻先」という。)に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。

また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下「破綻懸念先」という。)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認められる額を計上しております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績率から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しております。その金額は21,426百万円です。

連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認められた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。

(6)役員退職慰労引当金の計上基準

連結子会社の役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見込額のうち、当連結会計年度末までに発生していると認められる額を計上しております。

なお、当行は、役員退職慰労金制度を廃止し、役員退職慰労金を打ち切り支給すること及び株主報酬型ストックオプション制度を導入することを平成25年6月の定時株主総会において決議いたしました。このため、当行役員に対する役員退職慰労引当金を取り崩し、打ち切り支給分177百万円を「その他負債」に含めて表示しております。

(7)睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積もり、必要と認められる額を計上しております。

(8)利息返還損失引当金の計上基準

利息返還損失引当金は、債務者からの利息返還請求に備えるため、必要と認められる額を計上しております。

(9)偶発損失引当金の計上基準

当行の偶発損失引当金は、他の引当金で引当対象とした事実以外の偶発事象に対し、将来発生する可能性のある損失を見積もり、必要と認められる額を計上しております。

(10)退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については期間定額基準によっております。また、過去勤務費用及び数理計算上の差異の費用処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用 : その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(主として10年)による定額法により損益処理

数理計算上の差異 : 各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(主として10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌連結会計年度から損益処理

なお、連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(11)外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

当行の外貨建資産・負債及び海外支店勘定は、連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

(12)リース取引の処理方法

(借主側)

当行及び連結子会社の所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年4月1日以前に開始する連結会計年度に属するものについては、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。

(13)リース取引の収益・費用の計上基準

ファイナンス・リース取引に係る収益・費用の計上基準については、リース契約期間の経過に応じて売上高と売上原価を計上する方法によっております。

(14)重要なヘッジ会計の方法

(イ)金利リスク・ヘッジ

当行の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、繰延ヘッジによっております。その他有価証券に区分している固定金利の債券の相場変動を相殺するヘッジにおいては、同一種類毎にヘッジ対象を識別し、金利スワップ取引をヘッジ手段として指定しております。ヘッジ対象とヘッジ手段に関する重要な条件がほぼ同一となるようなヘッジ指定を行っているため、高い有効性があるとみなしており、これをもって有効性の判定に代えております。

また、一部の連結子会社において、金利スワップの特例処理を行っております。

(ロ)為替変動リスク・ヘッジ

当行の外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号)に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等と為替変動リスクを減殺する目的で行う資金関連スワップ取引をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。資金関連スワップ取引とは、異なる通貨での資金調達・運用を動機として行われ、当該資金の調達又は運用に係る元本相当額を直物買為替又は直物売為替とし、当該元本相当額に将来支払うべき又は支払を受けるべき金額・期日の確定している外貨相当額を含めて先物買為替又は先物売為替とした為替スワップ取引であります。

(15)のれんの償却方法及び償却期間

のれん及び負のれんの償却については、5年間の均等償却を行っております。

(16)連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日銀行への預け金であります。

(17)消費税等の会計処理

当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税(以下「消費税等」という。)の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当連結会計年度の費用に計上しております。

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下、「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下、「退職給付適用指針」という。)を、当連結会計年度末より適用し(ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く)、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過措置に從っており、当連結会計年度末において、税効果調整後の未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額として計上しております。

この結果、当連結会計年度末において、退職給付に係る負債が12,657百万円計上されております。また、繰延税金負債が775百万円増加し、その他の包括利益累計額が1,417百万円増加しております。

(未適用の会計基準等)

退職給付会計基準等(平成24年5月17日)

(1)概要

当該会計基準等は、財務報告を改善する観点及び国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充を中心に改正したものであります。

(2)適用予定日

当行は、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成26年4月1日に開始する連結会計年度の期首から適用する予定であります。

(3)当該会計基準等の適用による影響

当該会計基準等の適用による影響は、平成26年4月1日に開始する連結会計年度の期首における利益剰余金が1,458百万円減少する予定です。

(連結貸借対照表関係)

1.非連結子会社及び関連会社の株式又は出資金の総額

出資金	315百万円
-----	--------

2.貸出金のうち破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。

破綻先債権額	809百万円
延滞債権額	56,543百万円

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

3.貸出金のうち3か月以上延滞債権額は次のとおりであります。

3か月以上延滞債権額	309百万円
------------	--------

なお、3か月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

4.貸出金のうち貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。

貸出条件緩和債権額	27,990百万円
-----------	-----------

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権に該当しないものであります。

5.破綻先債権額、延滞債権額、3か月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。

合計額	85,652百万円
-----	-----------

なお、上記2.から5.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

6.手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号。以下「業種別監査委員会報告第24号」という。)に基づき金融取引として処理しております。

これにより受け入れた商業手形及び買入外国為替は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

	17,033百万円
--	-----------

7.担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産	
有価証券	154,283百万円
その他資産(リース投資資産)	720百万円
計	155,004百万円

担保資産に対応する債務

預金	17,320百万円
債券貸借取引受入担保金	19,224百万円
借入金	28,637百万円

上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。

有価証券	58,375百万円
------	-----------

また、その他資産には保証金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

保証金	790百万円
-----	--------

なお、手形の再割引は、業種別監査委員会報告第24号に基づき金融取引として処理しておりますが、これにより引き渡した商業手形及び買入外国為替はありません。

8.当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高	830,297百万円
---------	------------

うち原契約が1年以内のもの

(又は任意の時期に無条件で取消可能なもの)	806,354百万円
-----------------------	------------

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行及び連結子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内(社内)手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

9.土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、当行の事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日 平成10年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額に基づいて、近隣の公示価格を参照する等合理的な調整を行って算出。

同法律第10条に定める再評価を行った事業用の土地の当連結会計年度末における時価の合計額と当該事業用の土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額

	14,182百万円
--	-----------

10.有形固定資産の減価償却累計額

減価償却累計額	46,006百万円
---------	-----------

11.有形固定資産の圧縮記帳額

圧縮記帳額 (当連結会計年度の圧縮記帳額)	3,670百万円 (一百万円)
--------------------------	--------------------

12.借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金が含まれております。

劣後特約付借入金	30,000百万円
----------	-----------

13.社債は、劣後特約付社債であります。

14.有価証券中の社債のうち、有価証券の私算(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額

	6,251百万円
--	----------

(連結損益計算書関係)

1.「その他の経常費用」には、次のものを含んでおります。

貸出金償却	761百万円
株式等売却損	102百万円
株式等償却	15百万円

2.当行は、以下の資産について減損損失を計上しております。

なお、連結子会社の資産のグルーピングについては、全社をひとつの単位として減損の兆候を判定しておりますが、減損損失の計上はありません。

(減損損失を認識した資産又は資産グループ及び種類毎の減損損失額)

(イ) 滋賀県内

主な用途	営業用資産3カ所	遊休資産1カ所
種類	土地・建物・動産	土地・建物・動産
減損損失額	98百万円	5百万円

(ロ) 滋賀県外

主な用途	営業用資産1カ所	共用資産1カ所
種類	建物・動産	建物・動産
減損損失額	28百万円	22百万円

上記の資産は、継続的な地価の下落及び営業キャッシュ・フローの低下により、資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

(資産グループの概要及びグルーピングの方法)

(イ) 資産グループの概要

- 遊休資産
 - 店舗・宅跡地等
- 営業用資産
 - 営業の用に供する資産
- 共用資産
 - 銀行全体に関連する資産(本部、事務センター、寮宅等)

(ロ) グルーピングの方法

- 遊休資産
 - 各々が独立した資産としてグルーピング
- 営業用資産
 - 原則、営業店単位
 - ただし、母店との相互補完関係が強い出張所は母店と一緒にグルーピング
- 共用資産
 - 銀行全体を一体としてグルーピング

(回収可能価額)

減損損失の測定に使用した回収可能価額は正味売却価額又は使用価値のいずれか高い方の金額であり、正味売却価額は不動産鑑定評価額等より処分費用見込額を控除して、使用価値は将来キャッシュ・フローを5%で割り引いて、それぞれ算定しております。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る相替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金:

当期発生額	24,525百万円
相替調整額	△3,912百万円
税効果調整前	20,613百万円
税効果額	△7,055百万円
その他有価証券評価差額金	13,557百万円

繰延ヘッジ損益:

当期発生額	98百万円
相替調整額	72百万円
税効果調整前	171百万円
税効果額	△60百万円
繰延ヘッジ損益	110百万円

その他の包括利益合計 13,668百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

1.発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位:千株)

	当連結会計年度	当連結会計年度	当連結会計年度	当連結会計年度	摘要
	自株式数	増加株式数	減少株式数	期末株式数	
発行済株式					
普通株式	265,450	—	—	265,450	
合計	265,450	—	—	265,450	
自己株式					
普通株式	1,568	37	3	1,602	(注)
合計	1,568	37	3	1,602	

(注)当連結会計年度中の増加は単元未満株式の買取りによる増加、当連結会計年度中の減少はストック・オプションの権利行使による減少であります。

2.新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の数(株)		当連結会計年度末残高(百万円)	摘要
			当連結会計年度期首	当連結会計年度末		
当行	ストック・オプションとしての新株予約権		—	—	30	
合計			—	—	30	

3.配当に関する事項

(1)当連結会計年度中の配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	791百万円	3円	平成25年3月31日	平成25年6月26日
平成25年11月11日 取締役会	普通株式	791百万円	3円	平成25年9月30日	平成25年12月10日

(2)基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当連結会計年度の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	配当の原資	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	1,055百万円	利益剰余金	4円	平成26年3月31日	平成26年6月26日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金預け金勘定	257,212百万円
その他預け金	△ 350百万円
現金及び現金同等物	256,862百万円

2. 重要な非資金取引の内容

該当事項はありません。

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

(1) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

借主側

①リース資産の内容

(ア)有形固定資産

該当事項はありません。

(イ)無形固定資産

該当事項はありません。

②リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「5. 会計処理基準に関する事項」の「(4) 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

貸主側

①リース投資資産の内訳

リース料債権部分	18,382百万円
見積残存価値部分	761百万円
受取利息相当額(△)	1,969百万円
リース投資資産	17,174百万円

②リース償却及びリース投資資産にかかるリース料債権部分の連結決算日後の回収予定額

リース償却		リース投資資産	
1年以内	15百万円	1年以内	5,778百万円
1年超2年以内	14百万円	1年超2年以内	4,688百万円
2年超3年以内	13百万円	2年超3年以内	3,690百万円
3年超4年以内	12百万円	3年超4年以内	2,427百万円
4年超5年以内	12百万円	4年超5年以内	1,251百万円
5年超	50百万円	5年超	545百万円

③リース取引開始日がリース会計基準適用開始日前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、同会計基準適用初年度の前連結会計年度末における固定資産の帳簿価額(減価償却累計額控除後)をリース投資資産の期首の価額として計上しております。また、当該リース投資資産に関しては、会計基準適用後の残存期間における利息相当額の各期への配分方法を定額法によっております。このため、リース取引開始日に適及して利息法を適用した場合に比べ、税金等調整前当期純利益が以下のとおり多く計上されております。

税金等調整前当期純利益の増加額 71百万円

(2) 通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っている所有権移転外ファイナンス・リース取引

借主側

①リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額(単位:百万円)

	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	減損損失累計額相当額	期末残高相当額
有形固定資産	4	4	—	0
無形固定資産	—	—	—	—
合計	4	4	—	0

(注)取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利込み法によっております。

②未経過リース料期末残高相当額等

1年以内	0百万円
1年超	—百万円
合計	0百万円
リース資産減損勘定の残高	—百万円

(注)未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利込み法によっております。

③支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失

支払リース料	1百万円
リース資産減損勘定の取崩額	—百万円
減価償却費相当額	1百万円
減損損失	—百万円

④減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法により償却しております。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

1年以内/15百万円 1年超/32百万円 合計/48百万円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当行グループ(以下「当行」という)は、滋賀県を主要な営業基盤とする地域金融機関として、銀行業務を中心とした金融サービスを提供しております。

当行の中核をなす銀行業務としては、地域の顧客からお預かりした預金や金融市場等からの借入等により調達した資金を、営業エリア内の企業や個人等の顧客に対する貸出金及び有価証券投資等で運用しております。

この業務を行うため、主として金利変動を伴う金融資産及び金融負債を有しており、金利変動による不利益が生じることがないよう、資産・負債の総合管理(以下「ALM」という。なお、ALMは、Assets Liabilities Managementの略)を行っております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当行が保有する金融資産は、主として営業エリア内の企業や個人に対する貸出金であり、顧客の契約不履行によってたらされる信用リスクに晒されております。なお、当行の国内貸出金ポートフォリオは、特定業種に係る環境変化による信用リスクの顕在化を排除すべく、業種の分散を心がけております。

有価証券は、対顧客販売目的、純投資目的、政策投資目的で保有しております。対顧客販売目的としては、国債・地方債を保有しております。純投資目的としては、主に国債・地方債・高格付社債を中心とした債券や投資信託を保有し、また、政策投資目的として株式を保有しております。これらは、金利の変動リスクや市場価格の変動リスク及び発行体の信用リスクに晒されております。また、純投資目的として保有している外貨債券については、外貨預金、通貨スワップ、レポ取引あるいはコール取引で外貨資金を調達することで、為替変動リスクを抑えた運用を行っております。

借入金及び社債は、一定の環境下で当行が市場を利用できなくなる場合など、必要な資金を確保できない、あるいは、資金の確保に通常よりも著しく高い金利での資金調達を余儀なくされることにより損失を被るリスクに晒されております。また、一部は変動金利での借入を行っており、金利の上昇に伴う調達コストの増加により損失を被るリスクに晒されております。

当行では、顧客ニーズへの対応及び当行の資産・負債に係る市場リスクのヘッジを目的として、金リスワップ取引、通貨スワップ取引、通貨オプション取引及び為替予約取引等のデリバティブ取引を利用しております。これらのうち一部の取引については、金融商品会計に関する実務指針等に準拠する行内規程類とヘッジ対応方針に基づきヘッジ会計を適用しております。

また、短期的な売買を行う取引については、ポジション限度や損失限度額を設けたうえで、債券先物取引、債券オプション取引及び株価指数先物取引を行っております。

これらのデリバティブ取引には、金利や為替などの市場の変動により損失を被る可能性のある市場リスクや、取引の相手方が契約不履行に陥った場合に損失を被る可能性のある信用リスクが内包されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスクの管理

当行では、業務運営上、そのリスクの大きさや範囲から信用リスクを最も重要性を持つリスクとして認識し信用リスクに関する規程や基準書等を定めるとともに、基礎的內部格付手法に基づく格付制度を整備し、適切な信用リスク管理体制の構築を図っております。

特に、格付制度については、経営管理部が、その運用状況の検証結果を常務会等に報告するなど、適切な格付自己査定を実施する体制を整備しております。

また、個別与信管理については、「融資業務基本規程」を制定し、貸出金業務に携わる全従業員が遵守すべき考え方や行動規範を明文化するとともに、与信判断や与信管理を行う際の基本的な手続を定め、各役職員が、公共性・安全性・収益性・流動性・成長性の原則に則った与信判断を行える体制を確立しております。具体的には、企業(又は企業グループ)あるいは個別案件ごとの与信審査、与信限度額、信用情報管理、内部格付、保証や担保の設定、問題債権への対応など、与信管理に関する体制を整備し運営しております。これらの与信管理は、各営業店及び審査部により行われております。

海外向け信用供与については、与信先の属する国の外貨事情や政治・経済情勢等を勘案のうえ、事業年度ごとに常務会で国別の限度額を設定し、日次で管理しております。

有価証券等の市場性取引にあたっては、債券発行体の信用リスク及びデリバティブ取引や資金取引のカウンターパーティーリスクについては、半期ごとに常務会で限度額を設定し、信用状態や市場価格を日次で管理するとともに、定期的に常務会等へ報告する体制を整備しております。

②市場リスクの管理

当行では、市場リスク管理の高度化及び内部管理の堅強化を図り、経営の健全性を確保する目的で「市場リスク管理規程」を定めるとともに、安定した収益を確保するため、半期ごとにALM計画ならびに金利感応度分析等を策定し、適切なリスク管理体制の構築に努めております。

(i) 金利リスクの管理

金利リスクについては、銀行の業務運営上不可避に発生するものであり、預金、貸出金、有価証券等のすべての資産・負債(オフ・バランス取引を含む)について、ALMの観点より総合的に管理しております。

リスク管理方法や報告手続については、「市場リスク管理規程」や「各種基準書」を定め、VaR及び金利感応度分析等によりモニタリングを行い、定期的にALM委員会に報告しております。

(ii) 為替リスクの管理

為替変動リスクについては、為替リスクがある持高を管理するため常務会で持高限度額を設定し、為替取引や通貨スワップなどのデリバティブ取引を用いて持高をコントロールしております。

また、VaRによるリスク許容量を設定し、リスク量がその範囲内に収まっていることを日次で管理しております。

(iii) 価格変動リスクの管理

当行では、有価証券等の取引に係る価格変動リスクを厳格に管理するため、市場部門の組織をフロントオフィス(市場取引部門)、バックオフィス(事務管理部門)、ミドルオフィス(リスク管理部門)に分離しております。

有価証券等の市場性取引については、ALM計画及びリスク管理方針に基づき、全行的なリスクとリターンを勘案したうえで、市場部門で業務運営計画を策定しております。

投資にあたっては、上記の方針及び計画に基づき、ポジション額や損益のほか、VaRや金利感応度を算出するとともに、定められたリスク許容量等の各種限度額の遵守状況を日次で管理しております。

(iv) デリバティブ取引の管理

デリバティブ取引については、取引の執行、ヘッジ有効性の評価、事務管理に関する部門をそれぞれ分離し内部牽制を確立しております。なお、当行のデリバティブ取引の大半はヘッジ目的であるため、市場リスクについては、デリバティブ取引と保有する資産・負債のリスクが相殺されるように管理しております。

(v) 市場リスクに係る定量的情報

当行では、市場リスクのうち金利リスク及び株価変動リスクについて、統計的な手法であるVaRによりリスク量を定量的に把握するとともに、定期的にALM委員会等へ報告するなど、適切にモニタリング・管理しております。なお、リスク量の計測にあたっては、ヒストリカル・シミュレーション法(保有期間1年、信頼区間99%、観測期間2年)を採用しております。

(金利リスク)

当行では、「貸出金」、「有価証券」、「預金」をはじめとする全ての資産・負債ならびにデリバティブ取引を対象として、金利リスクを計測しております。

当連結会計年度末における当行の金利リスク量は、3,862百万円であります。

なお、普通預金等の流動性預金については、その一部を長期間銀行に滞留する預金として扱い、内部モデルに基づき各期間帯へ割り振り、金利リスクを認識しております。

(株価変動リスク)

政策投資を目的とする株式を保有しておりますが、当連結会計年度末における株価変動リスク量は、50,428百万円であります。

(バック・テスティング等)

当行では、VaRにより計測されたリスク量の適切性を検証するため、VaRを損益と比較するバック・テスティングを実施し、リスク計測手法の有効性について分析しております。しかしながら、VaRは過去の相場変動に基づき統計的に計測するため、前提条件や計測手法等によって異なる値となるほか、市場環境が激変する状況下ではリスクを適切に捕捉できない可能性があります。

なお、連結子会社が保有する金利リスク及び株価変動リスクは、当行に与える影響が軽微であることから、市場リスク算出の対象外としております。

③資金調達に係る流動性リスクの管理

当行では、正確な資金繰りの把握及び資金繰りの安定に努めることを基本方針として「流動性リスク管理規程」を定め、適切なリスク管理体制の構築を図っております。

日常の資金繰りに関しては、金融環境、資金化可能な流動資産の保有状況、予想される資金流出額などの状況を把握・管理するとともに、定期的に資金繰りに関する状況等をALM委員会に報告しております。

(4)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。

2.金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません(注2)参照)。また、重要性が乏しい金融商品は記載を省略しております。

	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1)コールローン及び買入手形	62,872	62,872	—
(2)有価証券			
売買目的有価証券	2,840	2,840	—
満期保有目的の債券	14,988	15,022	33
その他有価証券	1,401,067	1,401,067	—
(3)貸出金	2,916,953	—	—
貸倒引当金(※1)	△ 35,897	—	—
	2,881,056	2,905,478	24,421
資産計	4,362,825	4,387,280	24,454
(1)預金	4,163,311	4,163,973	662
(2)譲渡性預金	93,773	93,779	6
(3)借入金	69,255	71,433	2,177
(4)社債	20,000	20,085	85
負債計	4,346,340	4,349,271	2,931
デリバティブ取引(※2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	39	39	—
ヘッジ会計が適用されているもの	(120)	(120)	—
デリバティブ取引計	(80)	(80)	—

(※1)貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(※2)その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。

デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で表示しております。

(注1)金融商品の時価の算定方法

資 産

(1)コールローン及び買入手形

これらは、約定期間が短期間(1年未満)であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(2)有価証券

有価証券のうち、市場価格のあるものについては、市場価格によっております。

(3)貸出金

貸出金のうち、約定期間が短期間(1年未満)のものについては、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

約定期間が長期間(1年以上)のものうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない限り時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、約定に基づく元利金の将来キャッシュ・フローを、内部格付及び期間に基づく区分ごとに、インターバンク市場における金利に信用リスクプレミアム及び流動性リスクプレミアムを調整した金利で割り引いた現在価値を算定しております。なお、一部の貸出金(消費者ローン等)については、約定に基づく元利金の将来キャッシュ・フローを、同様の新規貸出を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見込高を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。

負 債

(1)預金、ならびに、(2)譲渡性預金

要求払預金については、連結決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。

定期預金ならびに譲渡性預金のうち、預入期間が短期間(1年未満)のものについては、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。預入期間が長期間(1年以上)のものについては、約定に基づく元利金の将来キャッシュ・フローを、預入期間に基づく区分ごとに、新規に預金を受け入れる際に使用する金利で割り引いた現在価値を算定しております。

(3)借入金

借入金のうち、約定期間が短期間(1年未満)のものについては、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

約定期間が長期間(1年以上)のものうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当行及び連結子会社の信用状態が実行後大きく異ならないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、約定に基づく元利金の将来キャッシュ・フローを、期間に基づく区分ごとに、インターバンク市場における金利に当行の信用リスクプレミアムを調整した金利で割り引いた現在価値を算定しております。なお、連結子会社の借入金については、約定に基づく元利金の将来キャッシュ・フローを、同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。

(4)社債

当行の発行する社債の時価は、市場価格によっております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引のうち、取引所取引については東京金融取引所等における最終の価格によっております。また、店頭取引については割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

なお、金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該借入金の時価に含めております。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「資産(2)有価証券(その他有価証券)」には含まれておりません。

区 分	連結貸借対照表計上額
非上場株式(※1)(※2)	3,314
合 計	3,314

(※1)非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象とはしていません。

(※2)当連結会計年度において、非上場株式について15百万円の減損処理を行っております。

(注3)金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
コールローン及び買入手形	62,872	—	—	—	—	—
有価証券	167,175	316,555	372,912	157,725	146,806	90,504
満期保有目的の債券	—	—	—	—	15,000	—
うち国債	—	—	—	—	15,000	—
地方債	—	—	—	—	—	—
社債	—	—	—	—	—	—
その他有価証券のうち 満期があるもの	167,175	316,555	372,912	157,725	131,806	90,504
うち国債	43,000	99,706	168,800	63,000	61,000	3,000
地方債	39,278	73,439	79,399	69,028	30,301	—
社債	78,060	129,152	100,354	19,776	13,715	78,111
貸出金(※)	779,140	578,293	391,756	230,107	295,476	559,146
合 計	1,009,188	894,849	764,669	387,833	442,282	649,650

(※)貸出金のうち、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権57,353百万円、期間の定めのないもの25,679百万円は上記に含めておりません。

(注4)社債、借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
預金(※)	3,664,430	469,312	29,567	—	—	—
譲渡性預金	93,773	—	—	—	—	—
借入金	33,375	3,965	1,722	10,192	—	20,000
社債	—	—	—	20,000	—	—
合 計	3,791,579	473,277	31,290	30,192	—	20,000

(※)預金のうち、要求払預金については、「1年以内」に含めて開示しております。

(退職給付関係)

1.採用している退職給付制度の概要

当行及び連結子会社は、従業員の退職給付にあてるため、積立型、非積立型の確定給付制度を採用しております。

当行の確定給付企業年金制度(規約型の積立型制度であります。)では、勤務期間等に基づいて一時金又は年金を支給しております。

当行の退職一時金制度(退職給付信託を設定した結果、すべて積立型制度となっております。)では、退職給付として勤務期間、役職等に基づいて一時金を支給しております。

なお、連結子会社が有する退職一時金制度(すべて非積立型制度であります。)は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2.確定給付制度(簡便法を適用した制度を除く。)

(1)退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

区 分	金額(百万円)
退職給付債務の期首残高	44,353
勤務費用	1,716
利息費用	665
数理計算上の差異の発生額	△ 1,747
退職給付の支払額	△ 2,472
過去勤務費用の発生額	—
退職給付債務の期末残高	42,515

(2)年金資産の期首残高と期末残高の調整表

区 分	金額(百万円)
年金資産の期首残高	25,757
期待運用収益	354
数理計算上の差異の発生額	3,195
事業主からの拠出額	1,775
退職給付の支払額	△ 1,136
年金資産の期末残高	29,946

(3)退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

区 分	金額(百万円)
積立型制度の退職給付債務	42,515
年金資産	△ 29,946
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	12,568

区 分	金額(百万円)
退職給付に係る負債	12,568
退職給付に係る資産	—
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	12,568

(4)退職給付費用及びその内訳項目の金額

区 分	金額(百万円)
勤務費用	1,716
利息費用	665
期待運用収益	△ 354
数理計算上の差異の費用処理額	766
過去勤務費用の費用処理額	△ 16
確定給付制度に係る退職給付費用	2,777

(5)退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

区 分	金額(百万円)
未認識過去勤務費用	△ 5
未認識数理計算上の差異	△ 2,187
合 計	△ 2,192

(6)年金資産に関する事項

①年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

債券	26%
株式	49%
現金及び預金	5%
一般勘定	20%
合 計	100%

(注)年金資産合計には、企業年金制度及び退職一時金制度に対して設定した退職給付信託が39%(主として株式5銘柄で構成)含まれております。

②長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率は、年金資産の資産構成を踏まえ、それぞれの資産から長期的に期待される収益を考慮して設定しております。

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎

①割引率	1.50%
②長期期待運用収益率	
年金資産(退職給付信託除く)	2.12%
年金資産(退職給付信託)	0.00%

3.簡便法を適用した確定給付制度

(1)簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

区 分	金額(百万円)
退職給付に係る負債の期首残高	84
退職給付費用	15
退職給付の支払額	△ 10
制度への拠出額	—
退職給付に係る負債の期末残高	89

(2)退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

区 分	金額(百万円)
非積立型制度の退職給付債務	89
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	89

区 分	金額(百万円)
退職給付に係る負債	89
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	89

(3)退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 15百万円

4.確定拠出制度

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

1.ストック・オプションにかかる費用計上額及び科目名

営業経費 32百万円

2.ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1)ストック・オプションの内容

	平成25年ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当行の取締役16名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)	普通株式 83,300株
付与日	平成25年8月20日
権利確定条件	権利確定条件は定めていない
対象勤務期間	対象勤務期間は定めていない
権利行使期間	平成25年8月21日～平成55年8月20日

(注)株式数に換算して記載しております。

(2)ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(平成26年3月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

①ストック・オプションの数

	平成25年ストック・オプション
権利確定前(株)	
前連結会計年度末	—
付与	83,300
失効	1,800
権利確定	62,050
未確定残	19,450
権利確定後(株)	
前連結会計年度末	—
権利確定	62,050
権利行使	3,700
失効	—
未行使残	58,350

②単価情報

	平成25年ストック・オプション
権利行使価格	1株あたり 1円
行使時平均株価	1株あたり 534円
付与日における公正な評価単価	1株あたり 528円

3.ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

当連結会計年度において付与された平成25年ストック・オプションについての公正な評価単価の見積り方法は、次のとおりであります。

(1)使用した評価技法

ブラック・ショールズ式

(2)主な基礎数値及び見積方法

	平成25年ストック・オプション
株価変動性(注)1	27.296%
予想残存期間(注)2	3年8か月
予想配当(注)3	1株あたり 6円
無リスク利率(注)4	0.189%

(注)1.3年8か月間(平成21年12月21日から平成25年8月20日まで)の株価実績に基づき算定しております。

2.過去10年間に退任した取締役の平均在任期間から現在の在任役員の在任期間を減じた期間の平均を予想在任期間とする方法により見積もっております。

3.平成25年3月期の配当実績によります。

4.予想残存期間に対応する期間に対応する国債の利回りであります。

4.ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1.繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	繰延税金負債
貸倒引当金	固定資産圧縮積立金
17,801百万円	△203百万円
有価証券評価損	固定資産圧縮特別勘定積立金
6,878百万円	△112百万円
退職給付に係る負債	その他有価証券評価差額金
7,463百万円	△31,228百万円
減価償却費	退職給付に係る調整累計額
1,783百万円	△775百万円
未払事業税	繰延税金負債合計
290百万円	△32,320百万円
その他	
2,311百万円	
繰延税金資産小計	繰延税金負債
36,530百万円	930百万円
評価性引当額	繰延税金負債
△17,285百万円	△14,005百万円
繰延税金資産合計	
19,245百万円	

2.連結財務諸表提出会社の法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率	37.7%
(調整)	
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△2.1%
評価性引当額の増減	0.4%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	4.2%
その他	1.2%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	41.4%

3.法人税等の税率変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が廃止されることとなりました。これに伴い、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異にかかる繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の37.75%から35.38%となります。この税率変更により、繰延税金資産は410百万円減少し、法人税等調整額は410百万円増加しております。

(重要な後発事象)

当行は、平成26年4月21日開催の取締役会において、平成21年7月28日に発行いたしました期限前償還条項付無担保社債(劣後特約付)を平成26年7月28日に全額期限前償還することについて決議いたしました。

①繰上償還する銘柄

株式会社滋賀銀行第1回期限前償還条項付無担保社債(劣後特約付)

②繰上償還額

200億円

③繰上償還金額

額面100円につき金100円

④繰上償還予定日

平成26年7月28日

⑤償還資金の調達方法

全額自己資金により償還いたします。

セグメント情報

1. 事業の種類別セグメント情報

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

当行グループは、銀行業の単一セグメントであるため、連結財務諸表における「セグメント情報」の記載は省略しておりますが、当セグメント情報は、銀行法施行規則第19条の3における「セグメント情報」として開示するものであります。

(単位 百万円)

	銀行業	リース・投資事業	その他の事業	計	消去又は全社	連結
I. 経常収益						
(1) 外部顧客に対する経常収益	76,634	9,584	2,596	88,815	—	88,815
(2) セグメント間の内部経常収益	276	118	2,482	2,877	(2,877)	—
計	76,911	9,702	5,079	91,693	(2,877)	88,815
経常費用	64,341	8,976	3,943	77,261	(2,803)	74,457
経常利益	12,569	726	1,135	14,431	(74)	14,357
II. 資産、減価償却費、減損損失及び資本的支出						
資産	4,640,563	25,858	15,697	4,682,119	(20,064)	4,662,055
減価償却費	3,241	45	51	3,338	—	3,338
減損損失	202	—	—	202	—	202
資本的支出	3,390	51	93	3,535	—	3,535

(注) 1. 一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。
2. 各事業の主な内容は次のとおりであります。
(1) 銀行業 …………… 銀行業
(2) リース・投資事業 …… リース業及びベンチャーキャピタル業等
(3) その他の事業 …… クレジットカード、事務代行事業等

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

当行グループは、銀行業の単一セグメントであるため、連結財務諸表における「セグメント情報」の記載は省略しておりますが、当セグメント情報は、銀行法施行規則第19条の3における「セグメント情報」として開示するものであります。

(単位 百万円)

	銀行業	リース・投資事業	その他の事業	計	消去又は全社	連結
I. 経常収益						
(1) 外部顧客に対する経常収益	75,389	10,226	2,674	88,290	—	88,290
(2) セグメント間の内部経常収益	299	108	2,515	2,923	(2,923)	—
計	75,689	10,334	5,189	91,213	(2,923)	88,290
経常費用	58,254	9,616	3,715	71,586	(2,828)	68,758
経常利益	17,435	717	1,473	19,626	(95)	19,531
II. 資産、減価償却費、減損損失及び資本的支出						
資産	4,755,810	26,767	17,545	4,800,124	(22,640)	4,777,483
減価償却費	2,467	36	51	2,555	—	2,555
減損損失	156	—	—	156	—	156
資本的支出	2,615	86	28	2,730	—	2,730

(注) 1. 一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。
2. 各事業の主な内容は次のとおりであります。
(1) 銀行業 …………… 銀行業
(2) リース・投資事業 …… リース業及びベンチャーキャピタル業等
(3) その他の事業 …… クレジットカード、事務代行事業等

2. 所在地別セグメント情報

全セグメントの経常収益の合計及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める本邦の割合がいずれも90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

3. 海外経常収益

海外経常収益が連結経常収益の10%未満のため、海外経常収益の記載を省略しております。

財務諸表

会社法第396条第1項の規定および金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき平成24年3月期、平成25年3月期および平成26年3月期の財務諸表は有限責任監査法人トーマツの監査証明を受けております。

貸借対照表

(単位 百万円)

		平成24年3月期 (平成24年3月31日現在)	平成25年3月期 (平成25年3月31日現在)	平成26年3月期 (平成26年3月31日現在)
資産の部	現金預け金	42,003	73,119	257,138
	現金	31,557	34,849	35,075
	預け金	10,446	38,269	222,063
	コールローン	183,565	158,022	62,872
	買入金銭債権	17,570	9,659	10,206
	商品有価証券	1,032	476	851
	商品国債	1,005	473	843
	商品地方債	27	3	8
	金銭の信託	7,799	7,780	8,774
	有価証券	1,430,092	1,485,577	1,421,212
	国債	543,160	493,455	461,114
	地方債	313,463	339,333	299,072
	社債	376,347	464,045	425,469
	株式	105,121	113,973	145,196
	その他の証券	92,000	74,768	90,359
	貸出金	2,750,010	2,829,492	2,924,882
	割引手形	19,524	19,856	16,842
	手形貸付	134,562	124,127	117,111
	証書貸付	2,256,978	2,350,179	2,463,138
	当座貸越	338,944	335,329	327,790
	外国為替	5,481	5,683	8,300
	外国他店預け	3,784	4,040	6,958
	買入外国為替	31	146	98
	取立外国為替	1,665	1,496	1,243
	その他資産	12,884	22,072	13,703
	前払費用	24	25	20
	未収収益	4,692	4,667	3,860
	金融派生商品	2,453	1,829	969
	その他の資産	5,714	15,550	8,853
	有形固定資産	58,817	58,641	57,508
	建物	14,720	15,686	15,168
	土地	39,883	39,456	39,226
	リース資産	253	204	154
建設仮勘定	818	160	224	
その他の有形固定資産	3,140	3,133	2,734	
無形固定資産	1,868	1,280	1,584	
ソフトウェア	1,701	1,114	1,419	
その他の無形固定資産	167	166	165	
繰延税金資産	2,046	—	—	
支払承諾見返	24,433	24,802	23,789	
貸倒引当金	△ 34,337	△ 36,042	△ 35,018	
投資損失引当金	△ 148	—	—	
資産の部合計	4,503,120	4,640,566	4,755,805	

貸借対照表

(単位 百万円)

		平成24年3月期 (平成24年3月31日現在)	平成25年3月期 (平成25年3月31日現在)	平成26年3月期 (平成26年3月31日現在)
負債の部	預金	3,994,497	4,094,961	4,167,024
	当座預金	141,916	153,481	144,758
	普通預金	1,595,746	1,699,971	1,766,140
	貯蓄預金	27,099	26,257	26,047
	通知預金	16,831	14,623	34,269
	定期預金	2,150,372	2,135,359	2,120,643
	定期積金	11	11	9
	その他の預金	62,519	65,256	75,155
	譲渡性預金	104,524	99,624	101,873
	コールマネー	—	14,303	28,069
	債券貸借取引受入担保金	—	10,135	19,224
	借入金	66,000	68,514	58,047
	借入金	66,000	68,514	58,047
	外国為替	82	114	130
	売渡外国為替	80	66	95
	未払外国為替	2	48	35
	社債	20,000	20,000	20,000
	その他負債	28,557	18,627	18,675
	未払法人税等	2,573	3,114	3,676
	未払費用	6,911	5,113	4,469
	前受収益	747	684	1,542
	従業員預り金	2,090	2,186	2,160
	給付補填備金	0	0	0
	金融派生商品	2,363	2,144	1,049
	リース債務	253	204	154
	その他の負債	13,618	5,179	5,623
	退職給付引当金	13,974	15,095	14,761
	役員退職慰労引当金	268	294	—
	睡眠預金払戻損失引当金	763	794	755
	偶発損失引当金	289	254	279
	繰延税金負債	—	5,176	13,229
	再評価に係る繰延税金負債	9,032	8,854	8,720
	支払承諾	24,433	24,802	23,789
負債の部合計	4,262,424	4,381,554	4,474,581	
純資産の部	資本金	33,076	33,076	33,076
	資本剰余金	23,949	23,949	23,949
	資本準備金	23,942	23,942	23,942
	その他資本剰余金	7	6	6
	利益剰余金	130,257	133,809	142,579
	利益準備金	9,134	9,134	9,134
	その他利益剰余金	121,123	124,675	133,444
	固定資産圧縮積立金	307	333	371
	固定資産圧縮特別勘定積立金	—	—	205
	別途積立金	112,693	118,193	122,193
	繰越利益剰余金	8,121	6,147	10,673
	自己株式	△ 945	△ 959	△ 977
	株主資本合計	186,338	189,876	198,627
	その他有価証券評価差額金	43,179	58,442	71,925
	繰延ヘッジ損益	0	△ 171	△ 60
	土地再評価差額金	11,177	10,864	10,700
	評価・換算差額等合計	54,356	69,135	82,565
	新株予約権	—	—	30
	純資産の部合計	240,695	259,012	281,223
	負債及び純資産の部合計	4,503,120	4,640,566	4,755,805

損益計算書

(単位 百万円)

	平成24年3月期 (平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)	平成25年3月期 (平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)	平成26年3月期 (平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)
経常収益	79,647	76,930	75,708
資金運用収益	61,191	57,704	54,740
貸出金利息	46,040	43,689	41,836
有価証券利息配当金	14,608	13,569	12,467
コールローン利息	388	309	204
預け金利息	10	3	117
その他の受入利息	143	132	115
役務取引等収益	10,444	10,495	10,609
受入為替手数料	3,354	3,317	3,310
その他の役務収益	7,089	7,178	7,299
その他業務収益	4,673	5,166	6,749
外国為替売買益	685	601	765
商品有価証券売買益	18	16	10
国債等債券売却益	3,969	4,547	5,577
金融派生商品収益	—	—	395
その他の業務収益	0	1	1
その他経常収益	3,338	3,564	3,608
償却債権取立益	1,328	1,628	1,359
株式等売却益	70	296	475
金銭の信託運用益	88	111	255
その他の経常収益	1,850	1,527	1,517
経常費用	63,798	64,360	58,276
資金調達費用	5,880	4,444	4,128
預金利息	4,282	2,913	2,420
譲渡性預金利息	257	176	122
コールマネー利息	1	15	71
債券貸借取引支払利息	1	6	26
借入金利息	941	877	849
社債利息	378	377	378
金利スワップ支払利息	—	50	242
その他の支払利息	16	24	17
役務取引等費用	4,250	4,401	4,617
支払為替手数料	616	611	627
その他の役務費用	3,633	3,789	3,990
その他業務費用	1,192	1,679	2,002
国債等債券売却損	651	450	2,000
国債等債券償還損	210	—	—
金融派生商品費用	330	1,228	—
その他の業務費用	0	0	1
営業経費	45,887	44,782	43,827
その他経常費用	6,588	9,053	3,700
貸倒引当金繰入額	3,908	5,309	2,310
貸出金償却	1,424	1,078	754
株式等売却損	4	—	102
株式等償却	509	2,125	15
金銭の信託運用損	34	16	66
その他の経常費用	707	524	451
経常利益	15,849	12,569	17,432
特別利益	119	56	229
固定資産処分益	119	56	229
特別損失	547	529	313
固定資産処分損	188	327	157
減損損失	359	202	156
税引前当期純利益	15,420	12,096	17,348
法人税、住民税及び事業税	5,207	5,726	6,315
法人税等調整額	2,854	1,548	844
法人税等合計	8,062	7,274	7,159
当期純利益	7,358	4,822	10,188

株主資本等変動計算書

平成24年3月期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金				利益剰余金合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		その他利益剰余金				
						固定資産圧縮積立金	固定資産圧縮特別勘定積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	33,076	23,942	7	23,949	9,134	307	—	110,693	4,231	124,367
当期変動額										
剰余金の配当									△ 1,583	△ 1,583
固定資産圧縮積立金の積立						—			—	—
別途積立金の積立								2,000	△ 2,000	—
当期純利益									7,358	7,358
自己株式の取得										
自己株式の処分			△ 0	△ 0						
土地再評価差額金の取崩									115	115
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)										
当期変動額合計	—	—	△ 0	△ 0	—	—	—	2,000	3,890	5,890
当期末残高	33,076	23,942	7	23,949	9,134	307	—	112,693	8,121	130,257

	株主資本		評価・換算差額等				新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	△ 934	180,459	40,658	0	9,999	50,658	—	231,118
当期変動額								
剰余金の配当		△ 1,583						△ 1,583
固定資産圧縮積立金の積立								
別途積立金の積立								
当期純利益		7,358						7,358
自己株式の取得	△ 12	△ 12						△ 12
自己株式の処分	1	0						0
土地再評価差額金の取崩		115						115
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			2,520	△ 0	1,178	3,698	—	3,698
当期変動額合計	△ 11	5,879	2,520	△ 0	1,178	3,698	—	9,577
当期末残高	△ 945	186,338	43,179	0	11,177	54,356	—	240,695

平成25年3月期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金				利益剰余金合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		その他利益剰余金				
						固定資産圧縮積立金	固定資産圧縮特別勘定積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	33,076	23,942	7	23,949	9,134	307	—	112,693	8,121	130,257
当期変動額										
剰余金の配当									△ 1,583	△ 1,583
固定資産圧縮積立金の積立						26			△ 26	—
別途積立金の積立								5,500	△ 5,500	—
当期純利益									4,822	4,822
自己株式の取得										
自己株式の処分			△ 0	△ 0						
土地再評価差額金の取崩									312	312
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)										
当期変動額合計	—	—	△ 0	△ 0	—	26	—	5,500	△ 1,974	3,551
当期末残高	33,076	23,942	6	23,949	9,134	333	—	118,193	6,147	133,809

	株主資本		評価・換算差額等				新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	△ 945	186,338	43,179	0	11,177	54,356	—	240,695
当期変動額								
剰余金の配当		△ 1,583						△ 1,583
固定資産圧縮積立金の積立								
別途積立金の積立								
当期純利益		4,822						4,822
自己株式の取得	△ 14	△ 14						△ 14
自己株式の処分	1	1						1
土地再評価差額金の取崩		312						312
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			15,262	△ 171	△ 312	14,778	—	14,778
当期変動額合計	△ 13	3,538	15,262	△ 171	△ 312	14,778	—	18,316
当期末残高	△ 959	189,876	58,442	△ 171	10,864	69,135	—	259,012

株主資本等変動計算書

平成26年3月期(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金				
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金				
						固定資産圧 縮積立金	固定資産圧 縮特別勘定 積立金	別途 積立金	繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計
当期首残高	33,076	23,942	6	23,949	9,134	333	—	118,193	6,147	133,809
当期変動額										
剰余金の配当									△ 1,583	△ 1,583
固定資産圧縮積立金の積立						37			△ 37	—
固定資産圧縮特別勘定積立金の積立							205		△ 205	—
別途積立金の積立								4,000	△ 4,000	—
当期純利益									10,188	10,188
自己株式の取得										
自己株式の処分			△ 0	△ 0						
土地再評価差額金の取崩									164	164
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)										
当期変動額合計	—	—	△ 0	△ 0	—	37	205	4,000	4,526	8,769
当期末残高	33,076	23,942	6	23,949	9,134	371	205	122,193	10,673	142,579

	株主資本		その他 有価証券 評価差額金	評価・換算差額等			新株予約権	純資産 合計
	自己株式	株主資本 合計		繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	△ 959	189,876	58,442	△ 171	10,864	69,135	—	259,012
当期変動額								
剰余金の配当		△ 1,583						△ 1,583
固定資産圧縮積立金の積立								—
固定資産圧縮特別勘定積立金の積立								—
別途積立金の積立								—
当期純利益		10,188						10,188
自己株式の取得	△ 20	△ 20						△ 20
自己株式の処分	2	1						1
土地再評価差額金の取崩		164						164
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			13,483	110	△ 164	13,429	30	13,460
当期変動額合計	△ 18	8,750	13,483	110	△ 164	13,429	30	22,211
当期末残高	△ 977	198,627	71,925	△ 60	10,700	82,565	30	281,223

●注記事項

[平成26年3月期]

(重要な会計方針)

1.商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)により行っております。

2.有価証券の評価基準及び評価方法

(1)有価証券の評価は、売買目的有価証券については時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、子会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については原則として決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(2)有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。

(3)「買入金銭債権」中の信託受益権の評価は、上記(1)と同じ方法により行っております。

3.デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

4.固定資産の減価償却の方法

(1)有形固定資産(リース資産を除く)

有形固定資産は、定率法(ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く。))については定額法を採用しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	3年～50年
その他	3年～20年

(2)無形固定資産(リース資産を除く)

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。

(3)リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

5.外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建の資産・負債及び海外支店勘定は、決算日の為替相場による円換算額を付しております。

6.引当金の計上基準

(1)貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下「実質破綻先」という。)に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認められる額を計上しております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績率から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は21,426百万円であります。

(2)退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。また、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については期間定額基準によっております。なお、過去勤務費用、数理計算上の差異の費用処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用	その発生年度の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による定額法により損益処理
数理計算上の差異	各発生年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日翌事業年度から損益処理

(3)睡眠預金払戻損失引当金

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積もり、必要と認められる額を計上しております。

(4)偶発損失引当金

偶発損失引当金は、他の引当金で引当対象とした事象以外の偶発事象に対し、将来発生する可能性のある損失を見積もり、必要と認められる額を計上しております。

7.リース取引の処理方法

所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年4月1日以前に開始する事業年度に属するものについては、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。

8.ヘッジ会計の方法

(イ)金利リスク・ヘッジ

金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、繰延ヘッジによっております。その他有価証券に区分している固定金利の債券の相場変動を相殺するヘッジにおいては、同一種類毎にヘッジ対象を識別し、金利スワップ取引をヘッジ手段として指定しております。ヘッジ対象とヘッジ手段に関する重要な条件がほぼ同一となるようなヘッジ指定を行っているため、高い有効性があるとみなしており、これをもって有効性の判定に代えております。

(ロ)為替変動リスク・ヘッジ

外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号)に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う資金関連スワップ取引をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。資金関連スワップ取引とは、異なる通貨での資金調達・運用を動機として行われ、当該資金の調達又は運用に係る元本相当額を直物買為替又は直物売為替とし、当該元本相当額に将来支払うべき又は支払を受けるべき金額・期日の確定している外貨相当額を含めて先物買為替又は先物売為替とした為替スワップ取引であります。

9.その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1)退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2)消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税(以下「消費税等」という。)の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当事業年度の費用に計上しております。

(追加情報)

当行は、役員退職慰労金制度を廃止し、役員退職慰労金を打ち切り支給すること及び株式報酬型ストック・オプション制度を導入することを平成25年6月の定時株主総会において決議いたしました。このため、当事業年度において当行役員に対する役員退職慰労引当金を取り崩し、打ち切り支給分177百万円を「その他の負債」に含めて表示しております。

(表示方法の変更)

以下の事項について、記載を省略しております。

- ・財務諸表等規則第8条の6に定めるリース取引に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第8条の28に定める資産除去債務に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第26条に定める減価償却累計額の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第42条に定める事業用土地の再評価に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第68条の4に定める1株当たり純資産額の注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の2に定める1株当たり当期純損益金額に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の3に定める潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の3の2に定める減損損失に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第107条に定める自己株式に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。

(貸借対照表関係)

1.関係会社の株式又は出資金の総額	
株式	746百万円
出資金	296百万円
2.貸出金のうち、破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。	
破綻先債権額	797百万円
延滞債権額	56,500百万円
なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。	
また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。	
3.貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額は次のとおりであります。	
3カ月以上延滞債権額	308百万円
なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。	
4.貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。	
貸出条件緩和債権額	27,935百万円
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。	
5.破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。	
合計額	85,541百万円
なお、上記2.から5.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。	
6.手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号。以下「業種別監査委員会報告第24号」という。)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形及び買入外国為替は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。	
	17,033百万円
7.担保に供している資産は次のとおりであります。	
担保に供している資産	
有価証券	154,283百万円
計	154,283百万円
担保資産に対応する債務	
預金	17,320百万円
債券貸借取引(受入)担保金	19,224百万円
借入金	28,047百万円
上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。	
有価証券	58,375百万円
また、その他の資産には、保証金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。	
保証金	784百万円
なお、手形の再割引は、業種別監査委員会報告第24号に基づき金融取引として処理しておりますが、これにより引き渡した商業手形及び買入外国為替はありません。	
8.当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。	
融資未実行残高	805,035百万円
うち原契約が1年以内のもの	
(又は任意の時期に無条件で取消可能なもの)	781,093百万円
なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができ旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。	
9.有形固定資産の圧縮記帳額	
圧縮記帳額	3,670百万円
(当事業年度の圧縮記帳額)	(一百万円)
10.借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金が含まれております。	
劣後特約付借入金	30,000百万円
11.社債は、劣後特約付社債であります。	
12.有価証券中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する当行の保証債務の額	6,251百万円

(税効果会計関係)

1.繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主原因別の内訳	
繰延税金資産	
貸倒引当金	17,195百万円
有価証券評価損	6,866百万円
退職給付引当金	7,430百万円
減価償却費	1,573百万円
未払事業税	263百万円
その他	2,134百万円
繰延税金資産小計	35,463百万円
評価性引当額	△17,268百万円
繰延税金資産合計	18,195百万円
繰延税金負債	
固定資産圧縮積立金	△203百万円
固定資産圧縮特別勘定積立金	△112百万円
その他有価証券評価差額金	△31,108百万円
繰延税金負債合計	△31,424百万円
繰延税金負債の純額	△13,229百万円
2.法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳	
法定実効税率	37.7%
(調整)	
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△2.4%
評価性引当額の増減	0.6%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	4.4%
その他	0.9%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	41.2%
3.法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正	
「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が廃止されることとなりました。これに伴い、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異にかかる繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の37.75%から35.38%となります。この税率変更により、繰延税金資産は377百万円減少し、法人税等調整額は377百万円増加しております。	
(重要な後発事象)	
当行は、平成26年4月21日開催の取締役会において、平成21年7月28日に発行いたしました期限前償還条項付無担保社債(劣後特約付)を平成26年7月28日に全額期限前償還することについて決議いたしました。	
①繰上償還する銘柄	
株式会社滋賀銀行第1回期限前償還条項付無担保社債(劣後特約付)	
②繰上償還額	
200億円	
③繰上償還金額	
額面100円につき金100円	
④繰上償還予定日	
平成26年7月28日	
⑤償還資金の調達方法	
全額自己資金により償還いたします。	

リスク管理債権(連結ベース)

(単位 百万円)

		平成24年3月期末	平成25年3月期末	平成26年3月期末
破綻先債権額		1,320	868	809
延滞債権額		61,152	64,033	56,543
3か月以上延滞債権額		539	475	309
貸出条件緩和債権額		13,372	25,259	27,990
合計	(A)	76,384	90,637	85,652
(部分直接償却額)		(28,325)	(23,671)	(21,322)
貸出金残高	(B)	2,743,438	2,822,561	2,916,953
リスク管理債権比率	$\frac{(A)}{(B)} \times 100$	2.78%	3.21%	2.93%

リスク管理債権

(単位 百万円)

		平成24年3月期末	平成25年3月期末	平成26年3月期末
破綻先債権額		1,310	850	797
延滞債権額		61,076	63,966	56,500
3か月以上延滞債権額		537	473	308
貸出条件緩和債権額		13,264	25,174	27,935
合計	(A)	76,189	90,465	85,541
(部分直接償却額)		(28,325)	(23,671)	(21,322)
貸出金残高	(B)	2,750,010	2,829,492	2,924,882
リスク管理債権比率	$\frac{(A)}{(B)} \times 100$	2.77%	3.19%	2.92%

金融再生法に基づく開示債権

(単位 百万円)

	平成24年3月期末	平成25年3月期末	平成26年3月期末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	5,793	5,179	3,964
危険債権	56,841	59,885	53,429
要管理債権	13,802	25,648	28,243
正常債権	2,709,070	2,774,311	2,872,492

貸倒引当金内訳

(単位 百万円)

	平成24年3月期					平成25年3月期					平成26年3月期				
	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他				目的使用	その他				目的使用	その他	
貸倒引当金															
一般貸倒引当金	15,507	15,562	—	15,507	15,562	15,562	16,167	—	15,562	16,167	16,167	16,060	—	16,167	16,060
個別貸倒引当金	18,707	18,774	3,798	14,909	18,774	18,774	19,875	3,603	15,170	19,875	19,875	18,958	3,334	16,540	18,958
特定海外債権引当金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	34,215	34,337	3,798	30,416	34,337	34,337	36,042	3,603	30,733	36,042	36,042	35,018	3,334	32,708	35,018

当期減少額の内、その他の額につきましては、洗替による取崩額です。

貸出金償却額

(単位 百万円)

	平成24年3月期	平成25年3月期	平成26年3月期
貸出金償却	1,424	1,078	754

国内・国際業務部門別粗利益等

(単位 百万円)

	平成24年3月期			平成25年3月期			平成26年3月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
資金運用収益	59,539	1,792	61,191	56,463	1,298	57,704	53,375	1,392	54,740
資金調達費用	4,981	1,028	5,870	4,096	397	4,436	3,723	424	4,121
資金運用収支	54,557	763	55,320	52,366	901	53,268	49,651	968	50,619
役務取引等収益	10,197	246	10,444	10,254	241	10,495	10,361	248	10,609
役務取引等費用	4,190	59	4,250	4,347	54	4,401	4,550	67	4,617
役務取引等収支	6,007	186	6,194	5,906	186	6,093	5,810	181	5,992
その他業務収益	2,989	1,684	4,673	4,437	728	5,166	5,844	905	6,749
その他業務費用	817	374	1,192	1,514	164	1,679	870	1,131	2,002
その他業務収支	2,171	1,309	3,481	2,923	563	3,486	4,973	△ 226	4,747
業務粗利益	62,736	2,259	64,996	61,196	1,651	62,848	60,435	923	61,358
業務粗利益率(%)	1.49	1.45	1.52	1.42	1.45	1.44	1.37	0.77	1.37

(注) 1.国内業務部門は国内店の円建取引、国際業務部門は国内店の外貨建取引及び海外店の取引であります。

ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定等は国際業務部門に含めております。

2.資金調達費用は金銭の信託運用見合費用(平成24年3月期9百万円、平成25年3月期7百万円、平成26年3月期7百万円)を控除して表示しております。

3.資金運用収益及び資金調達費用の合計欄の上段の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。

4.業務粗利益率= $\frac{\text{業務粗利益}}{\text{資金運用勘定平均残高}} \times 100$

5.特定取引収支については、該当ございません。

総資金利鞘

(単位 %)

	平成24年3月期			平成25年3月期			平成26年3月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
資金運用利回り	1.42	1.15	1.43	1.31	1.14	1.32	1.21	1.16	1.22
資金調達原価	1.17	1.42	1.20	1.11	1.45	1.13	1.07	1.41	1.08
総資金利鞘	0.25	△ 0.27	0.23	0.20	△ 0.31	0.19	0.14	△ 0.25	0.14

利益率

(単位 %)

	平成24年3月期	平成25年3月期	平成26年3月期
総資産経常利益率	0.35	0.27	0.37
純資産経常利益率	6.71	5.03	6.45
総資産当期純利益率	0.16	0.10	0.21
純資産当期純利益率	3.11	1.93	3.77

(注) 1.総資産経常(当期純)利益率= $\frac{\text{経常(当期純)利益}}{\text{総資産期首・期末平均残高}} \times 100$ 2.純資産経常(当期純)利益率= $\frac{\text{経常(当期純)利益}}{\text{純資産勘定期首・期末平均残高}} \times 100$

役務取引の状況

(単位 百万円)

	平成24年3月期			平成25年3月期			平成26年3月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
役務取引等収益	10,197	246	10,444	10,254	241	10,495	10,361	248	10,609
うち預金・貸出業務	2,124	—	2,124	2,146	—	2,146	2,110	—	2,110
うち為替業務	3,121	233	3,354	3,090	226	3,317	3,078	232	3,310
うち証券関連業務	236	—	236	268	—	268	286	—	286
うち代理業務	267	—	267	272	—	272	268	—	268
うち保護預り・貸金庫業務	162	—	162	163	—	163	159	—	159
うち保証業務	53	13	66	51	14	65	51	16	68
役務取引等費用	4,190	59	4,250	4,347	54	4,401	4,550	67	4,617
うち為替業務	571	45	616	567	44	611	570	57	627

営業経費の内訳

(単位 百万円)

	平成24年3月期	平成25年3月期	平成26年3月期
給料・手当	17,285	17,351	17,081
退職給付費用	3,959	3,583	2,777
福利厚生費	2,908	2,928	2,999
減価償却費	3,825	3,290	2,517
土地建物機械賃借料	812	801	833
宮繕費	1,142	1,130	1,130
消耗品費	575	522	573
給水光熱費	419	403	455
旅費	87	95	105
通信費	679	660	731
広告宣伝費	271	250	358
租税公課	2,031	2,057	2,049
その他	11,887	11,706	12,213
合計	45,887	44,782	43,827

資金運用・調達勘定平均残高、利息、利回り

(単位 百万円)

		平成24年3月期			平成25年3月期			平成26年3月期		
		国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
資金運用勘定	平均残高	(85,136)			(53,656)			(32,803)		
	利息	4,185,248	155,144	4,255,257	4,279,724	113,193	4,339,261	4,388,480	119,074	4,474,751
	利回り (%)	(139)			(57)			(27)		
		59,539	1,792	61,191	56,463	1,298	57,704	53,375	1,392	54,740
		1.42	1.15	1.43	1.31	1.14	1.32	1.21	1.16	1.22
うち貸出金	平均残高	2,705,055	11,433	2,716,489	2,737,013	15,500	2,752,514	2,826,357	21,860	2,848,217
	利息	45,855	185	46,040	43,477	211	43,689	41,614	221	41,836
	利回り (%)	1.69	1.62	1.69	1.58	1.36	1.58	1.47	1.01	1.46
うち商品有価証券	平均残高	790	—	790	543	—	543	805	—	805
	利息	4	—	4	2	—	2	2	—	2
	利回り (%)	0.59	—	0.59	0.47	—	0.47	0.29	—	0.29
うち有価証券	平均残高	1,260,618	115,185	1,375,803	1,369,251	78,991	1,448,242	1,275,494	83,794	1,359,288
	利息	13,300	1,302	14,603	12,712	854	13,566	11,391	1,074	12,465
	利回り (%)	1.05	1.13	1.06	0.92	1.08	0.93	0.89	1.28	0.91
うちコールローン	平均残高	117,603	19,965	137,569	106,463	12,067	118,530	126,945	6,609	133,554
	利息	124	264	388	113	196	309	138	65	204
	利回り (%)	0.10	1.32	0.28	0.10	1.62	0.26	0.10	0.99	0.15
うち買入手形	平均残高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	利息	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	利回り (%)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
うち預け金	平均残高	368	1,863	2,231	346	38	384	117,150	23	117,173
	利息	5	5	10	1	1	3	116	0	117
	利回り (%)	1.46	0.29	0.48	0.57	3.48	0.86	0.09	1.16	0.10
資金調達勘定	平均残高	(85,136)			(53,656)			(32,803)		
	利息	4,059,732	153,626	4,128,222	4,146,554	109,213	4,202,110	4,252,609	117,664	4,337,470
	利回り (%)	(139)			(57)			(27)		
		4,981	1,028	5,870	4,096	397	4,436	3,723	424	4,121
		0.12	0.66	0.14	0.09	0.36	0.10	0.08	0.36	0.09
うち預金	平均残高	3,878,192	50,772	3,928,965	3,960,723	48,527	4,009,251	4,068,409	47,882	4,116,291
	利息	3,896	386	4,282	2,609	304	2,913	2,133	286	2,420
	利回り (%)	0.10	0.76	0.10	0.06	0.62	0.07	0.05	0.59	0.05
うち譲渡性預金	平均残高	121,642	—	121,642	105,262	—	105,262	106,603	—	106,603
	利息	257	—	257	176	—	176	122	—	122
	利回り (%)	0.21	—	0.21	0.16	—	0.16	0.11	—	0.11
うちコールマネー	平均残高	81	30	112	—	3,557	3,557	—	20,266	20,266
	利息	0	1	1	—	15	15	—	71	71
	利回り (%)	0.12	3.96	1.17	—	0.44	0.44	—	0.35	0.35
うち債券貸借取引 受入担保金	平均残高	1,564	771	2,336	—	3,009	3,009	—	14,254	14,254
	利息	0	1	1	—	6	6	—	26	26
	利回り (%)	0.03	0.15	0.07	—	0.22	0.22	—	0.18	0.18
うち売渡手形	平均残高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	利息	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	利回り (%)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
うちコマースナル ペーパー	平均残高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	利息	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	利回り (%)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
うち借入金	平均残高	43,950	16,828	60,779	66,127	390	66,517	63,770	2,362	66,133
	利息	445	496	941	875	2	877	839	9	849
	利回り (%)	1.01	2.94	1.54	1.32	0.53	1.31	1.31	0.41	1.28

(注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高を控除しております。

平成24年3月期 国内業務部門27,485百万円、国際業務部門 104百万円、合計27,589百万円

平成25年3月期 国内業務部門26,227百万円、国際業務部門96百万円、合計26,324百万円

平成26年3月期 国内業務部門26,179百万円、国際業務部門96百万円、合計26,275百万円

2. 資金調達勘定は(ア)金銭の信託運用見合額の平均残高、及び(イ)利息をそれぞれ控除して表示しております。

(ア) 平成24年3月期 国内業務部門7,848百万円、国際業務部門 1百万円、合計7,848百万円

平成25年3月期 国内業務部門7,804百万円、国際業務部門 1百万円、合計7,804百万円

平成26年3月期 国内業務部門8,474百万円、国際業務部門 1百万円、合計8,474百万円

(イ) 平成24年3月期 国内業務部門9百万円、国際業務部門 1百万円、合計9百万円

平成25年3月期 国内業務部門7百万円、国際業務部門 1百万円、合計7百万円

平成26年3月期 国内業務部門7百万円、国際業務部門 1百万円、合計7百万円

3. ()は国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息(内書き)であります。

4. 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、日々カレント方式(すべての外貨建取引を、当日のTT仲値により円貨に換算する方法)により算出しております。

5. 合計欄において国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息は、相殺して記載しております。

受取利息・支払利息

(国内業務部門)

(単位 百万円)

	平成24年3月期			平成25年3月期			平成26年3月期		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	2,176	△ 4,286	△ 2,109	1,265	△ 4,341	△ 3,076	1,549	△ 4,636	△ 3,087
うち貸出金	602	△ 2,608	△ 2,005	527	△ 2,904	△ 2,377	1,644	△ 3,506	△ 1,862
うち商品有価証券	△ 5	4	△ 0	△ 1	△ 0	△ 2	△ 0	0	△ 0
うち有価証券	986	△ 794	191	1,346	△ 1,934	△ 587	△ 895	△ 426	△ 1,321
うちコールローン	44	—	44	△ 10	—	△ 10	25	—	25
うち買入手形	—	—	—	—	—	—	—	—	—
うち預け金	△ 1	△ 1	△ 2	△ 0	△ 3	△ 3	115	△ 0	114
支払利息	214	△ 2,148	△ 1,934	82	△ 968	△ 885	109	△ 481	△ 372
うち預金	152	△ 2,068	△ 1,915	72	△ 1,359	△ 1,287	92	△ 567	△ 475
うち譲渡性預金	10	△ 50	△ 40	△ 29	△ 51	△ 80	2	△ 56	△ 53
うちコールマネー	0	—	0	△ 0	△ 0	△ 0	—	—	—
うち債券貸借取引受入担保金	0	0	0	△ 0	△ 0	△ 0	—	—	—
うち売渡手形	—	—	—	—	—	—	—	—	—
うちコマース・ペーパー	—	—	—	—	—	—	—	—	—
うち借入金	37	△ 19	17	267	162	430	△ 28	△ 6	△ 35

(国際業務部門)

(単位 百万円)

	平成24年3月期			平成25年3月期			平成26年3月期		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	△ 433	△ 130	△ 564	△ 477	△ 15	△ 493	70	23	93
うち貸出金	40	9	49	48	△ 21	26	26	△ 16	9
うち商品有価証券	—	—	—	—	—	—	—	—	—
うち有価証券	△ 470	△ 146	△ 616	△ 393	△ 55	△ 448	54	165	219
うちコールローン	△ 28	21	△ 6	△ 159	91	△ 67	△ 70	△ 60	△ 131
うち買入手形	—	—	—	—	—	—	—	—	—
うち預け金	0	△ 0	0	0	△ 4	△ 4	△ 0	△ 0	△ 1
支払利息	△ 263	△ 36	△ 299	△ 245	△ 385	△ 631	27	0	27
うち預金	80	△ 91	△ 11	△ 15	△ 66	△ 81	△ 3	△ 14	△ 18
うち譲渡性預金	—	—	—	—	—	—	—	—	—
うちコールマネー	△ 0	0	0	14	△ 0	14	58	△ 2	55
うち債券貸借取引受入担保金	△ 5	△ 2	△ 8	4	0	5	20	△ 0	19
うち売渡手形	—	—	—	—	—	—	—	—	—
うちコマース・ペーパー	—	—	—	—	—	—	—	—	—
うち借入金	△ 109	△ 2	△ 111	△ 268	△ 225	△ 494	8	△ 0	7

(合計)

(単位 百万円)

	平成24年3月期			平成25年3月期			平成26年3月期		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	1,876	△ 4,379	△ 2,503	1,203	△ 4,691	△ 3,487	2,078	△ 5,041	△ 2,963
うち貸出金	649	△ 2,605	△ 1,956	601	△ 2,952	△ 2,351	1,564	△ 3,417	△ 1,852
うち商品有価証券	△ 5	4	△ 0	△ 1	△ 0	△ 2	△ 0	0	△ 0
うち有価証券	664	△ 1,090	△ 425	779	△ 1,816	△ 1,036	△ 816	△ 285	△ 1,101
うちコールローン	74	△ 37	37	△ 51	△ 26	△ 78	45	△ 151	△ 105
うち買入手形	—	—	—	—	—	—	—	—	—
うち預け金	△ 3	1	△ 2	△ 174	166	△ 7	114	△ 0	113
支払利息	250	△ 2,313	△ 2,062	95	△ 1,530	△ 1,434	149	△ 464	△ 315
うち預金	141	△ 2,067	△ 1,926	100	△ 1,468	△ 1,368	50	△ 544	△ 493
うち譲渡性預金	10	△ 50	△ 40	△ 29	△ 51	△ 80	2	△ 56	△ 53
うちコールマネー	0	0	0	14	△ 0	14	58	△ 2	55
うち債券貸借取引受入担保金	△ 3	△ 4	△ 7	0	4	5	20	△ 0	19
うち売渡手形	—	—	—	—	—	—	—	—	—
うちコマース・ペーパー	—	—	—	—	—	—	—	—	—
うち借入金	△ 1,547	1,453	△ 93	109	△ 173	△ 63	△ 5	△ 22	△ 28

預金・譲渡性預金平均残高

(単位 百万円)

	平成24年3月期			平成25年3月期			平成26年3月期			
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	
預金	流動性預金	1,686,346	940	1,687,286	1,785,878	967	1,786,846	1,899,616	1,021	1,900,638
	うち有利息預金	1,471,732	826	1,472,558	1,567,776	855	1,568,632	1,674,107	923	1,675,030
	定期性預金	2,177,784	1,660	2,179,444	2,160,499	2,010	2,162,510	2,154,283	2,369	2,156,652
	うち固定金利定期預金	2,175,221	—	2,175,221	2,157,809	—	2,157,809	2,151,517	—	2,151,517
	うち変動金利定期預金	679	—	679	641	—	641	608	—	608
	その他	14,062	48,171	62,234	14,344	45,549	59,894	14,508	44,491	59,000
合計	3,878,192	50,772	3,928,965	3,960,723	48,527	4,009,251	4,068,409	47,882	4,116,291	
譲渡性預金	121,642	—	121,642	105,262	—	105,262	106,603	—	106,603	
総合計	3,999,835	50,772	4,050,608	4,065,985	48,527	4,114,513	4,175,013	47,882	4,222,895	

(注) 1.流動性預金=当座預金+普通預金+貯蓄預金+通知預金
2.定期性預金=定期預金+定期積金
固定金利定期預金:預入時に満期日迄の利率が確定する定期預金
変動金利定期預金:預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期預金

定期預金の残存期間別残高

(単位 百万円)

	平成24年3月期末				平成25年3月期末				平成26年3月期末			
	定期預金	うち固定金利定期預金	うち変動金利定期預金	うちその他	定期預金	うち固定金利定期預金	うち変動金利定期預金	うちその他	定期預金	うち固定金利定期預金	うち変動金利定期預金	うちその他
3カ月未満	479,731	479,610	67	53	503,182	503,111	21	49	485,289	485,228	13	47
3カ月以上6カ月未満	409,927	409,871	56	—	414,058	414,029	29	—	411,854	411,846	8	—
6カ月以上1年未満	685,780	685,602	177	—	620,365	620,325	39	—	646,649	646,427	222	—
1年以上2年未満	247,611	247,522	89	—	266,543	266,293	249	—	283,817	283,546	271	—
2年以上3年未満	213,880	213,615	264	—	211,104	210,820	283	—	168,856	168,770	86	—
3年以上	15,870	15,870	—	—	24,768	24,768	—	—	30,898	30,898	—	—
合計	2,052,801	2,052,091	656	53	2,040,022	2,039,349	623	49	2,027,365	2,026,716	601	47

(注) 積立定期預金を含んでおりません。

貸出金科目別平均残高

(単位 百万円)

	平成24年3月期			平成25年3月期			平成26年3月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
手形貸付	129,701	2,484	132,185	116,405	3,280	119,686	109,545	2,765	112,311
証書貸付	2,226,157	8,949	2,235,106	2,278,106	12,219	2,290,325	2,377,082	19,094	2,396,176
当座貸越	334,218	—	334,218	327,180	—	327,180	324,476	—	324,476
割引手形	14,978	—	14,978	15,321	—	15,321	15,253	—	15,253
合計	2,705,055	11,433	2,716,489	2,737,013	15,500	2,752,514	2,826,357	21,860	2,848,217

(注) 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、日次カレント方式により算出しております。

貸出金の残存期間別残高

(単位 百万円)

	平成24年3月期末			平成25年3月期末			平成26年3月期末		
	貸出金	うち変動金利	うち固定金利	貸出金	うち変動金利	うち固定金利	貸出金	うち変動金利	うち固定金利
1年以下	547,918	—	—	523,661	—	—	524,856	—	—
1年超3年以下	532,400	286,514	245,885	568,717	299,039	269,678	592,216	298,190	294,026
3年超5年以下	392,272	209,753	182,518	393,459	211,988	181,470	401,882	204,448	197,433
5年超7年以下	216,820	117,890	98,929	236,065	133,186	102,879	242,964	124,683	118,280
7年超	721,654	399,964	321,690	772,259	443,620	328,639	835,173	453,714	381,458
期間の定めのないもの	338,944	320,707	18,236	335,329	317,800	17,529	327,790	310,433	17,357
合計	2,750,010	—	—	2,829,492	—	—	2,924,882	—	—

(注) 残存期間1年以下の貸出金については、変動金利、固定金利の区別をしておりません。

貸出金の担保別内訳

(単位 百万円)

	平成24年3月期末	平成25年3月期末	平成26年3月期末
有価証券	5,249	8,011	8,533
債権	33,424	32,427	31,516
商品	—	—	—
不動産	505,327	484,162	468,644
その他	438	355	352
計	544,440	524,956	509,046
保証	1,254,614	1,273,613	1,313,335
信用	950,955	1,030,922	1,102,501
合計	2,750,010	2,829,492	2,924,882
(うち劣後特約付貸出金)	(1,000)	(1,000)	(1,000)

支払承諾見返の担保別内訳

(単位 百万円)

	平成24年3月期末	平成25年3月期末	平成26年3月期末
有価証券	6	—	—
債権	3,009	2,552	2,118
商品	—	—	—
不動産	702	499	742
その他	—	—	—
計	3,717	3,051	2,861
保証	7,103	6,250	6,507
信用	13,612	15,500	14,420
合計	24,433	24,802	23,789

貸出金使途別残高・構成比

(単位 百万円、%)

	平成24年3月期末	平成25年3月期末	平成26年3月期末
設備資金	1,341,566 (48.78)	1,358,607 (48.02)	1,410,646 (48.23)
運転資金	1,408,444 (51.22)	1,470,885 (51.98)	1,514,235 (51.77)
合計	2,750,010 (100.00)	2,829,492 (100.00)	2,924,882 (100.00)

貸出金業種別内訳

(単位 百万円)

	平成25年3月期末			平成26年3月期末		
	貸出先数	貸出金残高	構成比 (%)	貸出先数	貸出金残高	構成比 (%)
国内店分(除く特別国際金融取引勘定分)	99,961	2,819,969	100.00	103,365	2,914,333	100.00
製造業	3,566	494,021	17.52	3,516	472,232	16.20
農業、林業	205	3,037	0.11	221	3,121	0.11
漁業	27	568	0.02	28	645	0.02
鉱業、採石業、砂利採取業	20	5,779	0.21	21	5,059	0.17
建設業	4,042	97,477	3.46	4,031	94,370	3.24
電気・ガス・熱供給・水道業	20	26,338	0.93	26	28,896	0.99
情報通信業	193	41,275	1.46	213	44,623	1.53
運輸業、郵便業	661	106,375	3.77	656	107,414	3.69
卸売業、小売業	4,464	364,079	12.91	4,484	370,722	12.72
金融業、保険業	97	70,033	2.48	101	70,353	2.41
不動産業、物品賃貸業	3,794	406,276	14.41	4,072	419,534	14.40
その他のサービス業	5,233	237,401	8.42	5,317	230,801	7.92
地方公共団体	27	201,424	7.14	27	270,011	9.27
その他	77,612	765,878	27.16	80,652	796,543	27.33
海外店分及び特別国際金融取引勘定分	29	9,523	100.00	27	10,549	100.00
政府等	—	—	—	—	—	—
金融機関	—	—	—	—	—	—
商工業・その他	29	9,523	100.00	27	10,549	100.00
合計	99,990	2,829,492	—	103,392	2,924,882	—

中小企業等に対する貸出金

(単位 百万円)

		平成24年3月期末		平成25年3月期末		平成26年3月期末	
		貸出先数	貸出金額	貸出先数	貸出金額	貸出先数	貸出金額
総貸出金残高 (A)		96,452先	2,744,319	99,961先	2,819,969	103,365先	2,914,333
中小企業等貸出金残高 (B)		95,745先	1,949,212	99,239先	1,965,882	102,630先	1,989,464
(B) / (A)		99.26%	71.02%	99.27%	69.71%	99.28%	68.26%

(注) 1. 海外店分及び特別国際金融取引勘定分を含んでおりません。

2. 中小企業等とは、資本金3億円(ただし、卸売業、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円)以下の会社又は常用する従業員が300人(ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人)以下の企業等であります。

特定海外債権残高

(単位 百万円)

	平成24年3月期末	平成25年3月期末	平成26年3月期末
外国政府等向け債権残高	—	—	—

(注) 「外国政府等」とは、外国政府、中央銀行、政府関係機関又は国営企業及びこれらの所在する国の民間企業等であり、日本公認会計士協会銀行等監査特別委員会報告第4号に規定する特定海外債権引当勘定を計上している国の外国政府等の債権残高を掲げております。

預貸率

(単位 百万円、%)

		平成24年3月期末			平成25年3月期末			平成26年3月期末		
		国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
貸出金 (A)		2,737,990	12,019	2,750,010	2,807,305	22,186	2,829,492	2,901,209	23,672	2,924,882
預金 (B)		4,050,077	48,944	4,099,022	4,144,556	50,029	4,194,585	4,225,897	43,000	4,268,897
預貸率 (A) / (B)		67.60	24.55	67.08	67.73	44.34	67.45	68.65	55.05	68.51
(期中平均)		(67.62)	(22.51)	(67.06)	(67.31)	(31.94)	(66.89)	(67.69)	(45.65)	(67.44)

(注) 預金には譲渡性預金を含んでおります。

商品有価証券種類別平均残高

(単位 百万円)

	平成24年3月期	平成25年3月期	平成26年3月期
商品国債	751	534	800
商品地方債	38	9	5
商品政府保証債	—	—	—
その他の商品有価証券	—	—	—
合計	790	543	805

有価証券の残存期間別残高

(単位 百万円)

種類	期間別	期間						期間の定めのないもの	合計
		1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超		
国債	平成24年3月期末	45,065	137,421	143,291	133,058	84,323	—	—	543,160
	平成25年3月期末	93,570	62,926	168,429	53,036	110,227	5,265	—	493,455
	平成26年3月期末	43,186	100,344	172,127	65,240	77,218	2,997	—	461,114
地方債	平成24年3月期末	20,562	61,311	70,819	42,071	118,698	—	—	313,463
	平成25年3月期末	21,774	90,179	67,130	86,565	73,683	—	—	339,333
	平成26年3月期末	39,643	74,472	80,985	73,058	30,912	—	—	299,072
短期社債	平成24年3月期末	—	—	—	—	—	—	—	—
	平成25年3月期末	—	—	—	—	—	—	—	—
	平成26年3月期末	—	—	—	—	—	—	—	—
社債	平成24年3月期末	48,139	104,589	69,803	17,474	65,717	70,622	—	376,347
	平成25年3月期末	39,244	126,225	101,848	48,668	49,497	98,561	—	464,045
	平成26年3月期末	79,626	129,886	101,336	20,622	13,967	80,030	—	425,469
株式	平成24年3月期末	—	—	—	—	—	—	105,121	105,121
	平成25年3月期末	—	—	—	—	—	—	113,973	113,973
	平成26年3月期末	—	—	—	—	—	—	145,196	145,196
その他の証券	平成24年3月期末	25,505	33,225	14,141	164	1,612	12,968	4,382	92,000
	平成25年3月期末	17,260	10,211	16,454	2,798	13,975	11,054	3,012	74,768
	平成26年3月期末	6,807	14,282	24,427	6,090	26,447	9,421	2,881	90,359
うち外国債券	平成24年3月期末	25,182	32,948	13,608	—	1,612	12,968	—	86,320
	平成25年3月期末	17,125	9,595	16,287	2,798	13,973	11,054	—	70,834
	平成26年3月期末	6,543	13,832	24,273	6,090	26,162	9,421	—	86,323
うち外国株式	平成24年3月期末	—	—	—	—	—	—	600	600
	平成25年3月期末	—	—	—	—	—	—	0	0
	平成26年3月期末	—	—	—	—	—	—	0	0

有価証券平均残高

(単位 百万円)

	平成24年3月期			平成25年3月期			平成26年3月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
国債	549,058	—	549,058	544,156	—	544,156	477,569	—	477,569
地方債	297,255	—	297,255	325,067	—	325,067	308,499	—	308,499
短期社債	—	—	—	—	—	—	—	—	—
社債	340,051	—	340,051	431,256	—	431,256	421,174	—	421,174
株式	66,552	—	66,552	64,469	—	64,469	63,621	—	63,621
その他の証券	7,700	115,185	122,885	4,300	78,991	83,291	4,628	83,794	88,422
うち外国債券	—	114,584	114,584	—	78,834	78,834	—	83,793	83,793
うち外国株式	—	600	600	—	156	156	—	0	0
合計	1,260,618	115,185	1,375,803	1,369,251	78,991	1,448,242	1,275,494	83,794	1,359,288

(注) 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、日次カレント方式により算出しております。

預証率

(単位 百万円、%)

		平成24年3月期末			平成25年3月期末			平成26年3月期末		
		国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
有価証券	(A)	1,343,171	86,921	1,430,092	1,414,741	70,835	1,485,577	1,334,887	86,324	1,421,212
預金	(B)	4,050,077	48,944	4,099,022	4,144,556	50,029	4,194,585	4,225,897	43,000	4,268,897
預証率	(A) / (B)	33.16	177.59	34.88	34.13	141.58	35.41	31.58	200.75	33.29
(期中平均)		(31.51)	(226.86)	(33.96)	(33.67)	(162.77)	(35.19)	(30.55)	(174.99)	(32.18)

(注) 預金には譲渡性預金を含んでおります。

有価証券関係

貸借対照表の「国債」「地方債」「社債」「株式」「その他の証券」のほか、「商品有価証券」、「買入金銭債権」中の信託受益権が含まれております。

1. 売買目的有価証券

(単位 百万円)

	平成24年3月31日現在	平成25年3月31日現在	平成26年3月31日現在
	当事業年度の損益に含まれた評価差額	当事業年度の損益に含まれた評価差額	当事業年度の損益に含まれた評価差額
売買目的有価証券	80	1	△118

2. 満期保有目的の債券

(単位 百万円)

	種類	平成24年3月31日現在			平成25年3月31日現在			平成26年3月31日現在		
		貸借対照表計上額	時価	差額	貸借対照表計上額	時価	差額	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が 貸借対照表 計上額を 超えるもの	国債	—	—	—	—	—	—	12,488	12,531	43
	地方債	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	社債	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	小計	—	—	—	—	—	—	12,488	12,531	43
時価が 貸借対照表 計上額を 超えないもの	国債	—	—	—	—	—	—	2,500	2,490	△9
	地方債	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	社債	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	小計	—	—	—	—	—	—	2,500	2,490	△9
合計	—	—	—	—	—	—	14,988	15,022	33	

3. 子会社株式及び関連会社株式

平成24年3月31日現在、平成25年3月31日現在、平成26年3月31日現在ともに子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

(単位 百万円)

	平成24年3月31日現在	平成25年3月31日現在	平成26年3月31日現在
	貸借対照表計上額	貸借対照表計上額	貸借対照表計上額
子会社株式	1,360	760	746
関連会社株式	—	—	—
合計	1,360	760	746

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

4. その他有価証券

(単位 百万円)

	種類	平成24年3月31日現在			平成25年3月31日現在			平成26年3月31日現在		
		貸借対照表計上額	取得原価	差額	貸借対照表計上額	取得原価	差額	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表 計上額が 取得原価を 超えるもの	株式	92,063	51,375	40,688	109,431	58,387	51,043	140,252	57,466	82,786
	債券	1,157,521	1,133,876	23,644	1,244,739	1,212,706	32,033	1,100,140	1,079,841	20,298
	国債	500,218	492,486	7,731	449,736	440,315	9,421	423,168	416,614	6,553
	地方債	306,348	297,181	9,166	338,804	326,865	11,938	282,578	275,026	7,552
	社債	350,954	344,208	6,746	456,198	445,525	10,673	394,393	388,200	6,192
	その他	39,521	39,165	355	48,062	47,536	526	54,530	53,912	618
小計	1,289,106	1,224,418	64,688	1,402,234	1,318,629	83,604	1,294,924	1,191,220	103,703	
貸借対照表 計上額が 取得原価を 超えないもの	株式	10,554	11,942	△ 1,388	2,038	2,081	△ 42	2,207	2,548	△ 340
	債券	75,449	75,627	△ 177	52,095	52,379	△ 284	70,526	70,600	△ 74
	国債	42,941	43,010	△ 69	43,719	43,975	△ 256	22,957	22,977	△ 19
	地方債	7,115	7,122	△ 7	529	529	△ 0	16,493	16,519	△ 26
	社債	25,392	25,494	△ 101	7,846	7,874	△ 27	31,076	31,103	△ 27
	その他	52,392	53,831	△ 1,438	27,322	28,063	△ 740	35,902	36,157	△ 254
	小計	138,396	141,401	△ 3,004	81,456	82,524	△ 1,068	108,637	109,306	△ 669
合計	1,427,503	1,365,819	61,683	1,483,690	1,401,154	82,536	1,403,561	1,300,527	103,034	

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券

(単位 百万円)

	平成24年3月31日現在		平成25年3月31日現在		平成26年3月31日現在	
	貸借対照表計上額		貸借対照表計上額		貸借対照表計上額	
非上場株式	1,742		1,743		1,990	
合計	1,742		1,743		1,990	

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、前頁の「その他有価証券」には含めておりません。

5. 当事業年度中に売却した満期保有目的の債券

平成24年3月期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)、平成25年3月期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)、平成26年3月期(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)ともに該当事項はありません。

6. 当事業年度中に売却したその他有価証券

(単位 百万円)

	平成24年3月期			平成25年3月期			平成26年3月期		
	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	17	2	4	1,021	296	—	672	221	2
債券	253,494	2,891	78	554,514	4,417	147	352,840	5,442	752
国債	233,461	2,492	78	497,072	3,107	146	216,798	1,496	518
地方債	14,799	316	—	31,580	730	—	54,238	1,643	123
社債	5,234	82	—	25,861	579	0	81,803	2,303	110
その他	27,412	998	353	5,363	126	164	31,803	134	1,130
合計	280,925	3,892	437	560,898	4,841	311	385,316	5,799	1,886

7. 減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券(時価を把握することが極めて困難なものを除く)のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって貸借対照表価額とするとともに、評価差額を当事業年度の損失として処理(以下「減損処理」という。)しております。

平成24年3月期における減損処理額は、435百万円(全額株式)、平成25年3月期における減損処理額は、2,125百万円(全額株式)、平成26年3月期における減損処理額は、ありません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社区分ごとに次のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先については決算日の時価が取得原価に比べて下落している場合、要注意先については決算日の時価が取得原価に比べて30%以上下落した場合、正常先については決算日の時価が取得原価に比べて50%以上下落した場合又は30%以上下落した場合で市場価格が一定水準以下で推移した場合であります。

なお、要注意先とは今後管理に注意を要する債務者、正常先とは破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の債務者であります。

金銭の信託関係

1. 運用目的の金銭の信託

(単位 百万円)

	平成24年3月31日現在		平成25年3月31日現在		平成26年3月31日現在	
	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価差額	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価差額	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価差額
運用目的の金銭の信託	7,799	54	7,780	95	8,774	65

2. 満期保有目的の金銭の信託

平成24年3月31日現在、平成25年3月31日現在、平成26年3月31日現在ともに該当事項はありません。

3. その他の金銭の信託(運用目的及び満期保有目的以外)

平成24年3月31日現在、平成25年3月31日現在、平成26年3月31日現在ともに該当事項はありません。

その他有価証券評価差額金

貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

(単位 百万円)

	平成24年3月31日現在	平成25年3月31日現在	平成26年3月31日現在
評価差額	61,683	82,536	103,034
うちその他有価証券	61,683	82,536	103,034
(△)繰延税金負債	18,504	24,094	31,108
その他有価証券評価差額金	43,179	58,442	71,925

デリバティブ取引関係

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益ならびに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

平成24年3月31日現在、平成25年3月31日現在、平成26年3月31日現在ともに該当事項はありません。

(2) 通貨関連取引

(単位 百万円)

	種 類	平成24年3月31日現在				平成25年3月31日現在				平成26年3月31日現在				
		契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時 価	評価損益	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時 価	評価損益	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時 価	評価損益	
金 融 品 取 引 所	通貨先物	売 建	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		買 建	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	通貨オプション	売 建	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		買 建	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
店 頭	通貨スワップ	127,182	103,164	166	166	109,949	68,906	110	110	72,202	53,683	76	76	
	為替予約	売 建	6,928	—	△ 220	△ 220	12,372	—	△ 661	△ 661	14,995	—	△ 242	△ 242
		買 建	6,106	—	224	224	12,232	—	560	560	12,724	—	205	205
	通貨オプション	売 建	30,495	16,095	△ 1,341	180	22,953	8,139	△ 813	170	18,139	7,098	△ 429	147
		買 建	30,495	16,095	1,341	173	22,953	8,139	813	68	18,139	7,098	429	5
	その他	売 建	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
買 建		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合 計		—	—	170	524	—	—	10	249	—	—	39	193	

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

割引現在価値等により算定しております。

(3) 株式関連取引

平成24年3月31日現在、平成25年3月31日現在、平成26年3月31日現在ともに該当事項はありません。

(4) 債券関連取引

平成24年3月31日現在、平成25年3月31日現在、平成26年3月31日現在ともに該当事項はありません。

(5) 商品関連取引

平成24年3月31日現在、平成25年3月31日現在、平成26年3月31日現在ともに該当事項はありません。

(6) クレジットデリバティブ取引

平成24年3月31日現在、平成25年3月31日現在、平成26年3月31日現在ともに該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価ならびに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

(単位 百万円)

ヘッジ会計の方法	種 類	平成24年3月31日現在				平成25年3月31日現在				平成26年3月31日現在			
		主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時 価	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時 価	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時 価
原則的 処理方法	金利スワップ	受取固定・支払変動	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		受取変動・支払固定	—	—	—	—	その他(割引金利)	50,000	50,000	△ 264	その他(割引金利)	50,000	50,000
	金利先物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	金利オプション	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
金利スワップの 特別処理	金利スワップ	受取固定・支払変動	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		受取変動・支払固定	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計		—	—	—	—	—	—	—	△ 264	—	—	—	△ 93

(注) 1. 主として繰延ヘッジによるものです。

2. 時価の算定

取引所取引については、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

(2) 通貨関連取引

(単位 百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	平成24年3月31日現在				平成25年3月31日現在				平成26年3月31日現在			
		主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時価	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時価	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時価
原則的 処理方法	通貨スワップ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	為替予約	外貨建貸出金	1,540	—	△ 80	外貨建貸出金	1,334	—	△ 60	外貨建貸出金	1,242	—	△ 26
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
為替予約等の 振当処理	通貨スワップ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計		—	—	—	△ 80	—	—	—	△ 60	—	—	—	△ 26

(注) 1.主として「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号)に基づき、繰延ヘッジによっております。
2.時価の算定
割引現在価値等により算定しております。

(3) 株式関連取引

平成24年3月31日現在、平成25年3月31日現在、平成26年3月31日現在ともに該当事項はありません。

(4) 債券関連取引

平成24年3月31日現在、平成25年3月31日現在、平成26年3月31日現在ともに該当事項はありません。

従業員の状況

(単位 人)

	平成24年3月期	平成25年3月期	平成26年3月期
期末従業員数	2,358	2,308	2,290
男性	1,384	1,381	1,382
女性	974	927	908
平均年齢	36歳3ヵ月	36歳8ヵ月	36歳10ヵ月
平均勤続年数	13年10ヵ月	14年3ヵ月	14年5ヵ月
平均年間給与	6,952千円	7,077千円	7,104千円

(注) 1.従業員数は、嘱託、臨時雇用(平成24年3月31日978人、平成25年3月31日997人、平成26年3月31日1,004人)を含んでおりません。なお、出向者を含みます。
2.平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3.従業員の定年は、満60歳に達したときとしております。

従業員1人当たり預金

(単位 百万円)

	平成24年3月期末			平成25年3月期末			平成26年3月期末		
	国内店	海外店	合計	国内店	海外店	合計	国内店	海外店	合計
従業員数(人)	2,384	4	2,388	2,344	4	2,348	2,342	4	2,346
従業員1人当たり預金	1,718	672	1,716	1,788	814	1,786	1,821	773	1,819

(注) 1.預金額には譲渡性預金を含んでおります。
2.従業員数は期中平均人員を記載しております。なお、国内店の従業員数には本部人員を含んでおります。

従業員1人当たり貸出金

(単位 百万円)

	平成24年3月期末			平成25年3月期末			平成26年3月期末		
	国内店	海外店	合計	国内店	海外店	合計	国内店	海外店	合計
従業員数(人)	2,384	4	2,388	2,344	4	2,348	2,342	4	2,346
従業員1人当たり貸出金	1,151	1,419	1,151	1,203	2,380	1,205	1,244	2,637	1,246

(注) 従業員数は期中平均人員を記載しております。なお、国内店の従業員数には本部人員を含んでおります。

1店舗当たり預金

(単位 百万円)

	平成24年3月期末			平成25年3月期末			平成26年3月期末		
	国内店	海外店	合計	国内店	海外店	合計	国内店	海外店	合計
営業店舗数(店)	98	1	99	97	1	98	97	1	98
1店舗当たり預金	41,799	2,690	41,404	43,209	3,259	42,801	43,977	3,095	43,560

(注) 1.預金額には譲渡性預金を含んでおります。
2.店舗数には出張所を含んでおりません。

1店舗当たり貸出金

(単位 百万円)

	平成24年3月期末			平成25年3月期末			平成26年3月期末		
	国内店	海外店	合計	国内店	海外店	合計	国内店	海外店	合計
営業店舗数(店)	98	1	99	97	1	98	97	1	98
1店舗当たり貸出金	28,003	5,677	27,777	29,071	9,523	28,872	30,044	10,549	29,845

(注) 店舗数には出張所を含んでおりません。